



令和7年度中小企業等の省エネルギー診断拡充事業  
(サプライチェーン向け省エネ・地域パートナーシップ構築事業)  
報告書 (公開版)

有限責任監査法人トーマツ  
2026年2月27日

< Confidential >



中国経済産業局 資源エネルギー環境部 エネルギー対策課 御中

有限責任監査法人トーマツ  
パートナー 仁木 一彦  
プリンシパル 長谷川 孝明  
マネージングディレクター 堀江 常稔

貴課におかれましては、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
令和7年度中小企業等の省エネルギー診断拡充事業（サプライチェーン向け省エネ・地域パートナーシップ構築事業）の報告書を  
提出いたします。ご査収のほど、よろしくお願い申し上げます。

# 目次

① エグゼクティブサマリー	P.4
---------------	-----

---

② 中国地域GX・サプライチェーン・サミットの運営等	P.6
----------------------------	-----

---

③ 省エネ・地域パートナーシップ育成強化事業	P.38
------------------------	------

---

③-1 省エネ診断の現地研修による育成事業	P.39
-----------------------	------

---

③-2 省エネ伴走支援の実施を踏まえた支援ポイントの勉強会による育成事業	P.45
--------------------------------------	------

---

③-3 先進事例及び育成講義に係る「先進・育成事例集」の作成	P.47
--------------------------------	------

---

# ① エグゼクティブサマリー

# 本業務では、地域企業の省エネの取組や金融機関と省エネ支援機関の連携を促進するため、サミットの開催や実地研修、勉強会、先進・育成事例集の作成を行った

## エグゼクティブサマリー

- 本事業では、省エネに積極的な姿勢を有する地域の金融機関や省エネ支援機関が参加する「省エネ・地域パートナーシップ」の取組の一環として、国から各参画機関への情報提供を円滑に行うことで、最新の政策動向を地域の金融機関や省エネ支援機関に効果的に届けるとともに、「中国地域GX・サプライチェーン・サミットの開催」、省エネ・地域パートナーシップ育成強化として金融機関を対象とした「実地研修」や「勉強会」を開催し、それらを踏まえた、金融機関向けの「先進・育成事例集」の作成を実施した。
- 「中国地域GX・サプライチェーン・サミットについては、マツダ株式会社とそのサプライチェーン企業を対象に、国やマツダ株式会社動向の講演会、省エネ支援機関とのマッチングを実施した。その後のアンケート調査からは、省エネ目標の設定や運用改善・設備投資の進捗状況、補助金活用への関心、今後の支援要望（補助金申請支援や技術事例の提供等）が明らかとなった。
- 金融機関向けの「実地研修」では、取組を進めている中小企業や省エネ支援機関での講演や現場視察を実施し、環境への取組の重要性や脱炭素ではなく、省人化を切り口とした提案の重要性等について説明があった。
- 金融機関向けの「勉強会」では、省エネ支援機関担当者に講師をいただき、①省エネ地域パートナーシップとは、②省エネ診断とは省エネの重要性の伝え方、③省エネ支援機関の連携メリット、④エネルギーマネジメント協会の伴走支援の特徴、支援事例、⑤令和7年度補正予算案について説明をいただいた。
- 「先進・育成事例集」については、①なぜ省エネが必要か、②中小企業の省エネの進め方と連携事例、③補助金一覧、省エネ支援機関連絡先一覧を整理した。

## ② 中国地域GX・サプライチェーン・サミットの運営等

# 中国地域GX・サプライチェーンサミットでは、マツダ株式会社とそのサプライチェーン企業を対象に、省エネ支援機関とのマッチング会等を実施した

## 中国地域GX・サプライチェーン・サミットの運営等の実施内容

実施内容

### ①リーディングカンパニー等との企画調整

- サミットとの実施の中心となるリーディングカンパニーとして、マツダ株式会社（以下、「マツダ」という。）を設定し、サミット開催等に向けた企画調整を実施した

### ②地域企業の省エネ・ニーズ把握

- マツダ協力の基、マツダのサプライチェーン企業を対象に、サミットの開催案内と省エネへの取組状況やニーズに係るアンケート調査（サプライヤーアンケート）を実施した
- 並行して、中国地域を対象とする省エネ支援機関にアンケート調査（省エネ支援機関アンケート）を実施した
- サプライチェーン企業のニーズと省エネ機関の強みを基に、サミットでのマッチング等の企画を実施した

### ③中国地域GX・サプライチェーン・サミットの開催

- マツダにおいて、サミットを開催（11月26日実施）し、当日の関係者の講演、サプライチェーン企業と省エネ支援機関とのマッチング会を実施した

### ④サミット開催結果の取りまとめ及びフォローアップ

- マツダサプライチェーン企業を対象に、サミットに関する感想や今後の省エネの取組、投資に関するアンケートを実施した
- アンケート結果について、取りまとめを実施した

# サミットへの参加有無の把握の他、現在のマツダのサプライチェーン企業を対象とした省エネへの検討、取組状況を把握するためにアンケートを実施した

## 地域企業の省エネ・ニーズ把握

- ①企画調整
- ②ニーズ把握
- ③サミットの開催
- ④取りまとめ

**目的**

- サミットへの参加有無の把握とマツダのサプライチェーン企業の省エネ等の検討、実施状況を把握し、今後のサプライチェーンでの省エネの取組拡大に向けた支援策等の検討材料とするため

省エネの重要性理解  
及び現状把握とマッチング

マツダのサプライチェーンにおける省エネ手法の確立と支援促進及び投資の実施

省エネ取組ステップアップと補助を活用した省エネ投資の拡大

- サプライチェーン企業各社の省エネの現在地の把握
- 政策などの脱炭素に向けた省エネ支援の動向把握
- 各企業の現状やニーズとそれに合致したパートナー機関とのマッチングを行い、省エネ診断や次年度以降の運用改善、設備投資を実施に向けた機運の醸成
- サプライチェーン企業各社の次の省エネステップの取組に向けて、パートナー機関との協議の実施
- 運用改善の実施や投資による省エネ効果の最大化に向けた取組の拡大
- 各社の実施状況を踏まえた、成功事例や取組が進まない状況を整理し、マツダとしての支援方法の検討・実践
- 支援体制が整うサプライチェーン企業先での投資の実施
- マツダのサプライチェーンにおける省エネ手法による支援の拡充
- サプライチェーン企業での省エネ優良事例を整理し、取組が進まない他のサプライチェーン企業への事例紹介の実施

**把握の方法**

- 右記のチラシをマツダより、取引先企業に案内をいただき、WEBアンケートにより回答を回収した

**実施時期**

- 2025年10月1日（水）～10月14日（火）  
（ただし、希望者には〆切後でも回答を受領）

**アンケート項目**

- 次頁を参照

### 中国地域GX・サプライチェーン・サミット開催に向けた開催案内/アンケートのお願い

中国経済産業局では、「省エネ・地域パートナーシップ」の枠組みのもと、中国地域GX・サプライチェーン・サミットを開催いたします。この枠組みでは、金融機関と省エネ支援機関が連携し、地域全体で省エネの取組を推進することを目指しています。（「省エネ・地域パートナーシップ」事業者向け省エネ関連情報 | 資源エネルギー庁）

本サミットでは、マツダ株式会社（以下、「マツダ」という。）のサプライチェーン関連企業様向けに、今後の方針や支援内容についてご説明するとともに、地域全体で省エネ推進に向けたパートナー機関との相談も実施いたします。省エネルギーのご検討中の企業様はもちろん、「関心はあるが進め方が分からない/まだ実施できていない」という企業様も含め、すべてのマツダのサプライチェーン企業様が対象です。これを機会に省エネルギーを通じた環境対応やコスト削減のご検討をお願い申し上げます（参加者は下記URL/QRコードよりお申込みいただけます）。

**【実施概要】**

開催日：2025年11月26日（水）

開催時間\*1：13:00～16:30（講演 13:00-14:00、パートナー企業との個別相談会 14:00-16:30）※スケジュールは変更の可能性有

開催場所：マツダ株式会社本社1号館3階講堂（広島県安芸郡府中町新地3-1）

対象参加者：各社の省エネルギーの推進を中心となって進めている方  
（例：省エネ推進の後押しを行える執行権限者、省エネ活動の実務に精通し、省エネ活動を企画し実行しているリーダー等）

内容\*1：①省エネに関する国や中国地域の動向、  
②マツダのサプライチェーンにおけるカーボンニュートラルに向けた方針の説明、  
③地域パートナーシップ機関との省エネルギー相談会

参加費用：無料

申込方法：下記アンケートより申し込みをお願いします

\*1 終了時間と内容については今後変更になる可能性があります

**参加申込/アンケートのお願い**

省エネ相談会の参加申込は、以下のURLまたはQRコードから申込みください。参加企業の要望に合わせた相談会とするため、現状の省エネ取組状況や要望等を把握するアンケートにも併せてお答えください（10～15分程度）。アンケートについては、下記のURL、もしくはQRコードよりご回答をお願い申し上げます（現状の取組把握のため、サミット参加を検討されていない企業様でもアンケートへのご回答をお願い申し上げます）。本参加申込/アンケートの回答期限は、10月14日（火）18:00までとなります。ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

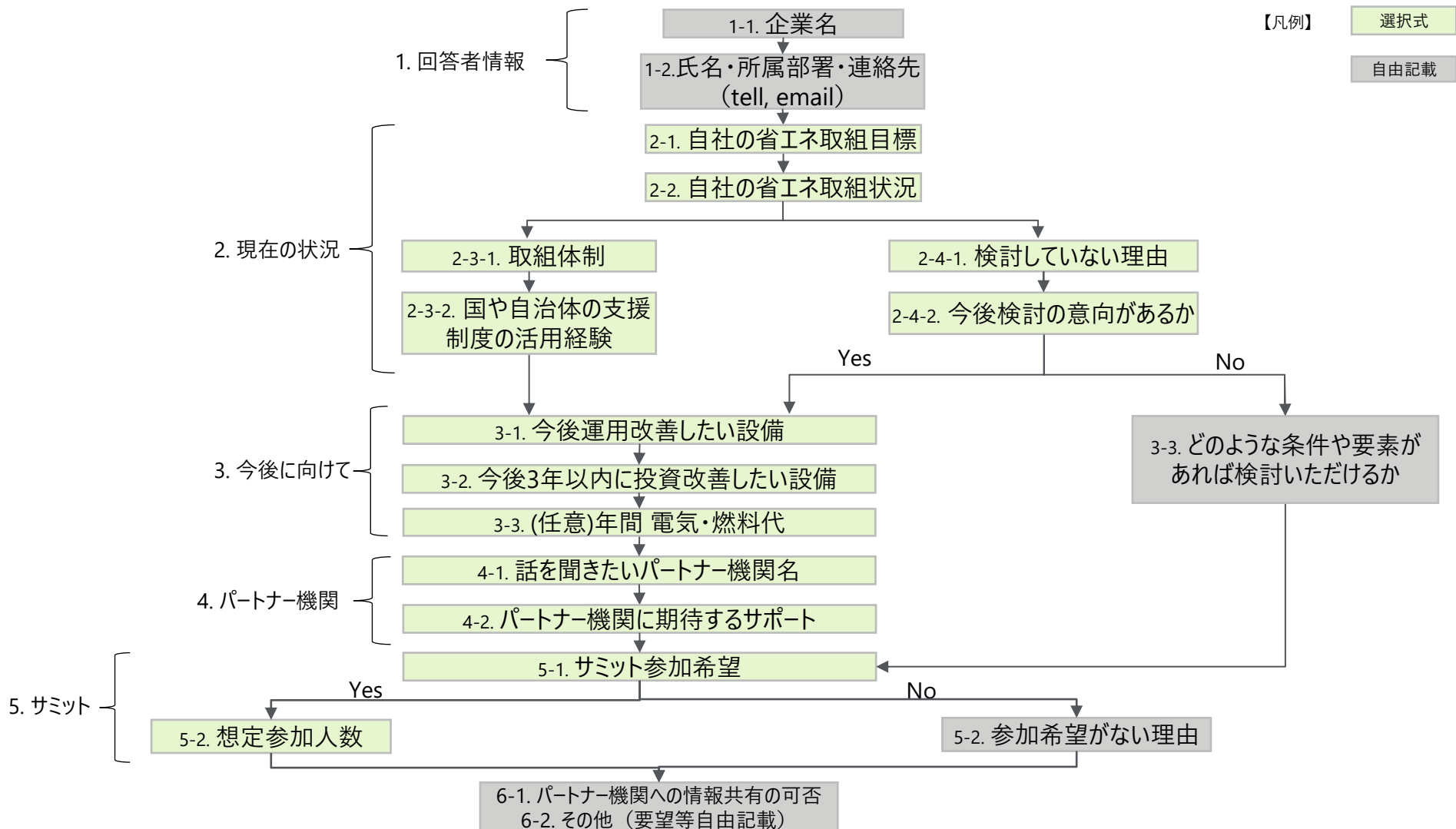
【アンケートURLとQRコード】 <https://forms.office.com/e/QiWQRf3Z90>

事務局：経済産業省 中国経済産業局  
本事業に関する問合せ先（本業務の委託先）  
有限責任監査法人トーマツ 小林、斎藤  
（小林）TEL：090-9152-1475 E-mail：ryosuke.kobayashi@tohmatu.co.jp  
（斎藤）TEL：070-1502-8295 E-mail：takahito.saito@tohmatu.co.jp

# 現在の取組状況、今後の運用改善や投資したい設備、省エネ支援機関に求める支援、サミットへの参加希望を中心にアンケートを実施した

## サプライヤーアンケート全体像

- ① 企画調整
- ② ニーズ把握
- ③ サミットの開催
- ④ 取りまとめ



# 自社の省エネ取組目標や取組状況の他、取組体制や国の支援制度の活用実績についても確認した

## サプライヤーアンケート項目詳細（1/2）

①企画調整    ②ニーズ把握    ③サミットの開催    ④取りまとめ

アンケート設問	選択肢
2-1. 自社の省エネ取組目標	①カーボンニュートラルと一体となった省エネの目標が設定され、企業や工場全体で管理をしている、②省エネの目標自体は設定されており、進捗管理もしている、③省エネの目標自体は立てたが、運用はされていない、④省エネの目標を設定していない、⑤その他（自由記載）
2-2. 自社の省エネ取組状況	①必要な運用改善や設備投資は概ね実施している、②運用改善は実施しているが、設備の更新に向けた検討が必要である、③自社（個別機器も含む）のエネルギー使用状況は把握（見える化）しているが、運用改善のやり方がわからない、④検討は進めたいが、進め方がわからない（自社のエネルギーの使用状況を把握（見える化）していない）、⑤まったく検討していない
2-3-1. 取組体制	①省エネ専門の部門やチームなど、一定の規模感で推進している、②特定の個人など、小規模な規模感で推進している、③取組体制は構築されていない/担当者を決めていない、④その他（自由記載）
2-3-2. 国や自治体の支援制度の活用経験	①活用したことがある（制度名:_____）、②検討しなかった、③検討したが、情報不足で活用しなかった、④検討したが、手続きが煩雑で活用しなかった、⑤検討したが、対象外だったため活用しなかった、⑥検討したが、メリットが不透明で活用しなかった、⑦その他（自由記載）
2-4-1. 検討していない理由	①初期投資やコスト負担が大きい、②人的リソース・時間が不足している、③効果が不明確・メリットが実感できない、④専門知識やノウハウが不足している、⑤情報不足・支援制度の利用方法が分からない、⑥経営層・従業員の関心や意識が低い、⑦顧客・取引先からの要請など、外部的インセンティブがない、⑧その他（自由記載）
2-4-2. 今後検討の意向があるか	①はい、②いいえ
3-1. 今後運用改善したい設備 3-2. 今後3年以内に投資改善したい設備	①高効率空調（産業・業務用エアコン等）、②産業ヒートポンプ、③業務用給湯器、④高性能ボイラ、⑤高効率コージェネレーション、⑥低炭素工業炉、⑦変圧器、⑧冷凍冷蔵設備、⑨産業用モータ、⑩制御機能付きLED照明器具、⑪工作機械、⑫プラスチック加工機械、⑬プレス機械、⑭印刷機械、⑮ダイカストマシン、⑯EMS（エネルギーマネジメントシステム）、⑰運用改善したい設備はない、⑱その他（自由記載）

# 今後の運用改善と投資を行いたい設備の具体的な設備名や電気代、話を聞きたい省エネ機関と希望する支援についても確認した

## サプライヤーアンケート項目詳細 (2/2)

①企画調整

②ニーズ把握

③サミットの開催

④取りまとめ

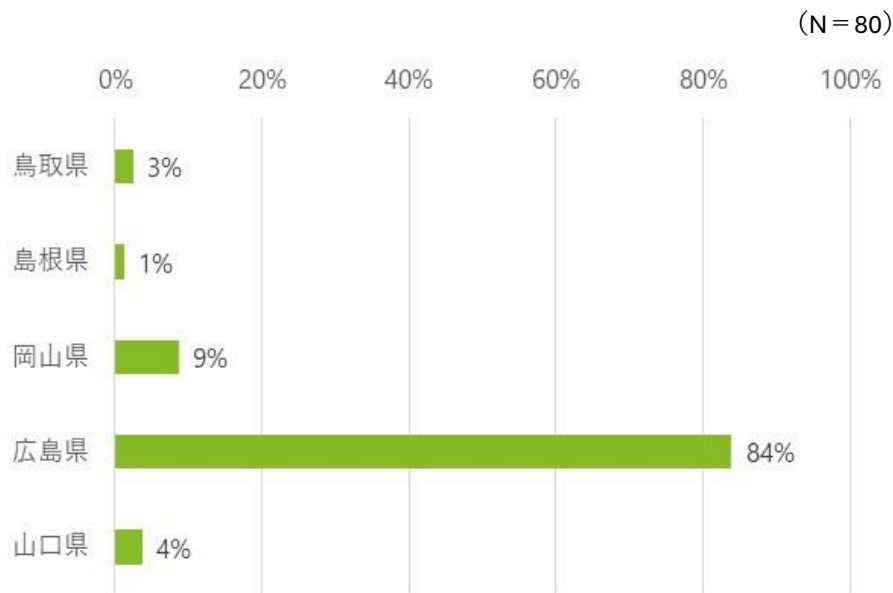
アンケート設問	選択肢
3-3.(任意)年間 電気代 * 複数の工場を保有している場合、3-1, -2にて回答した設備のある工場、又は一番電気・燃料消費が多い工場の金額を回答	①～200万円未満、②200～500万円未満、③500～1,500万円未満、④1,500～5,000万円未満、⑤5,000万円以上
3-3.(任意)年間 燃料代 * 複数の工場を保有している場合、3-1, -2にて回答した設備のある工場、又は一番電気・燃料消費が多い工場の金額を回答	①～100万円未満、②100～300万円未満、③300～1,000万円未満、④1,000～3,000万円未満、⑤3,000万円以上
4-1.話を聞きたいパートナー機関	中国地域を対象とする省エネ支援機関 23団体
4-2.パートナー機関に期待するサポート	①個別企業向けの省エネ講座、②IT診断、③ウォークスルー診断（設備単位）、④ウォークスルー診断（工場・事業所全体）、⑤省エネ最適化診断、⑥伴走支援、⑦ステップアップ診断、⑧補助金申請支援、⑨その他（自由記載）
5-1. サミット参加希望	①はい、②いいえ
5-2.想定参加人数	①1人 or 2人、②3人～5人、③6人以上

# 事前のアンケートでは、広島県を本社とする企業からの申し込みが84%、省エネ目標については、目標を設定し企業や工場全体で管理しているが44%と最多となった

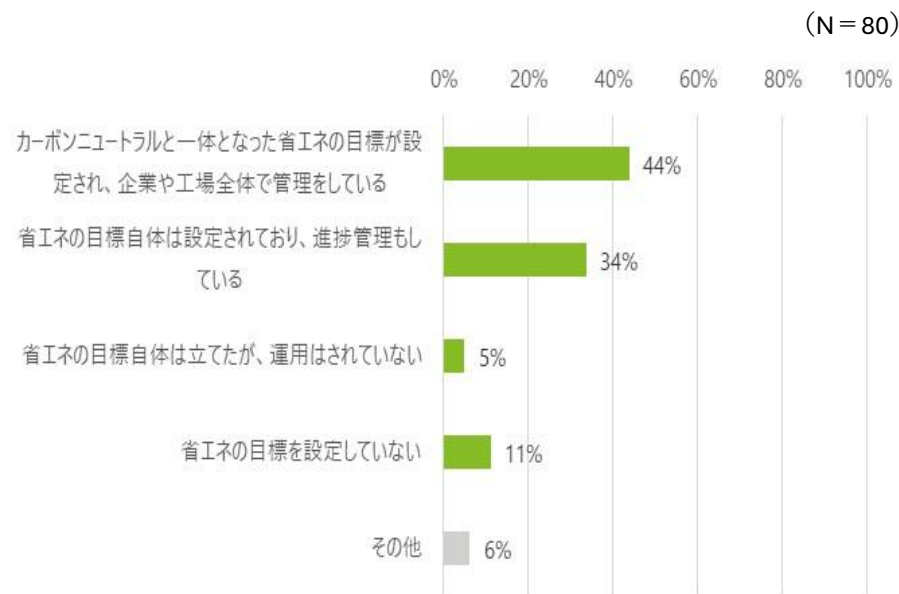
## アンケート結果 (1/8)

- ①企画調整
- ②ニーズ把握
- ③サミットの開催
- ④取りまとめ

■ 本社の所在地を選択してください。



■ 自社の省エネ取組目標について合うものを選択してください。



「その他（自由記載）」\*原文引用  
工場が無い/ 事務所のみ管理/ 自治体のため該当なし（設問8も同様）/ 省エネシステムの提案を行っている/ 弊社工場ではない為

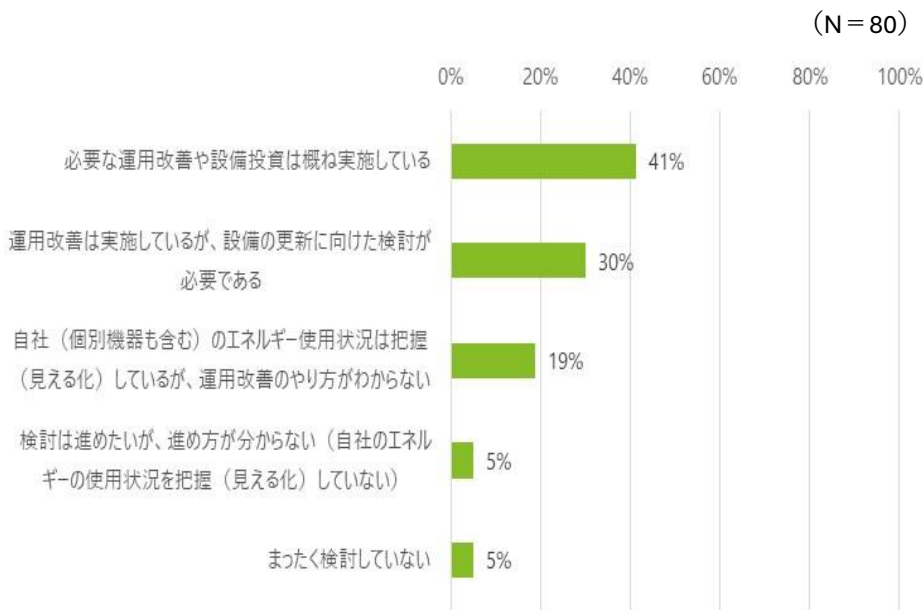
※上記の結果は、今回のアンケートで回答された全ての内容を含めた結果を集計した

# 省エネの取組状況として、必要な運用改善や投資を概ね実施しているが41%、取組体制については一定の規模感で推進しているが45%と最多となった

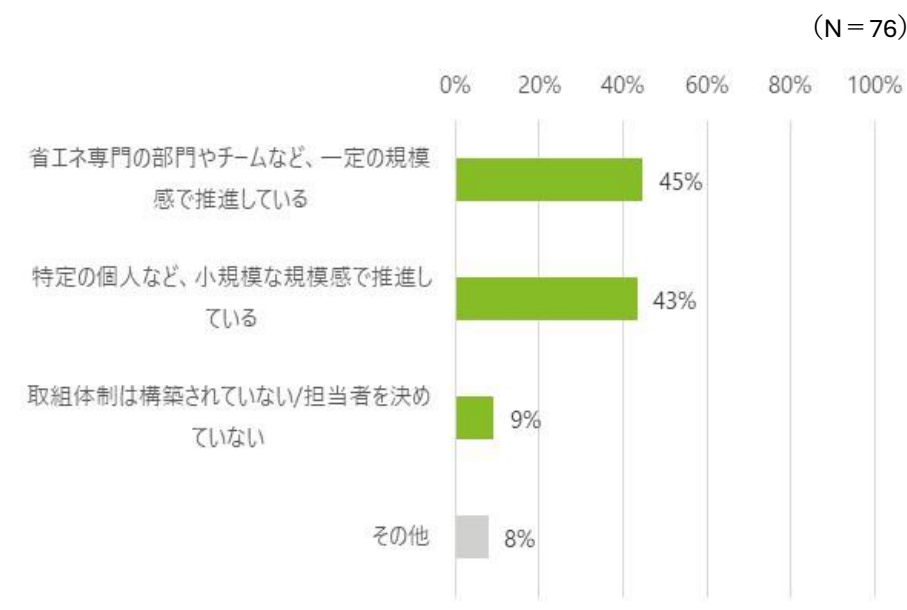
## アンケート結果 (2/8)



■ 自社の省エネ取組状況について合うものを選択してください。



■ 自社の省エネ取組体制について合うものを選択してください。



「その他（自由記載）」\*原文引用  
ISO14001で推進している/ 事務所のみ管理

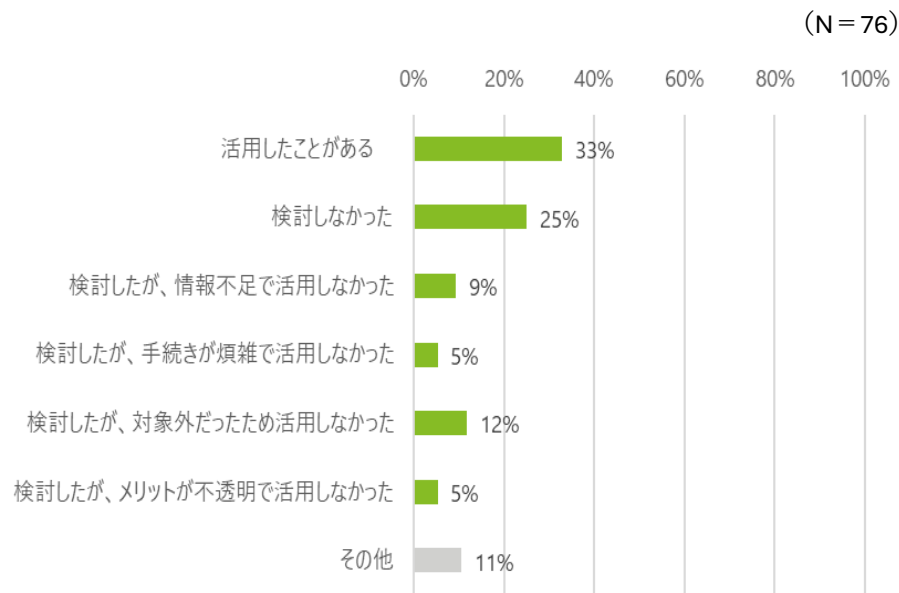
※上記の結果は、今回のアンケートで回答された全ての内容を含めた結果を集計した

# 省エネ支援制度の活用状況は、活用したことがあるが33%と最多であり、具体的な制度としては多岐に渡った

## アンケート結果 (3/8)



■ 国や自治体の省エネ支援制度の活用経験について合うものを選択してください。



■ 具体的な制度名をお書きください。

\* 原文引用

(N = 21)

- 省エネルギー投資促進支援事業
- SHIFT事業
- 省エネルギー投資促進支援事業費補助金
- 2022広島県カーボンニュートラル支援事業（伴走支援）
- 2025広島県カーボンニュートラル事業
- 岡山県省エネアドバイザー派遣事業
- 省エネお助け隊
- 広島県カーボンニュートラル支援事業(コンサル)
- 令和3年度 地域プラットフォーム構築事業 省エネお助け隊
- 呉市脱炭素化設備導入補助金
- 広島県カーボンニュートラルへ向けた産業支援事業
- 省エネお助け隊
- 広島市中山間地域における中小企業の人材確保支援事業 職場環境改善補助
- カーボンニュートラル へ向けたものづくり産業支援事業
- 省エネ診断
- 先進的エネルギー投資推進事業
- 省エネ診断（経済産業省）サービス
- 山口県再エネ補助金
- 省エネお助け隊
- 広島県伴走支援事業（電通総研様サポート）
- 省エネルギーセンター省エネ診断

「その他（自由記載）」\*原文引用

環境省として自主財源で取り組んでいる/関連部署へ別途確認します。/検討したが応募期間と弊社の活動時期が合わなかったため活用しなかった/事務所のみ管理/自治体のため設問に沿う回答がありません/自社で実施済み

# 省エネ検討をしていない企業の理由としては、省エネを支援する立場のためという回答が主であり、省エネ検討の意向がない、が100%となった

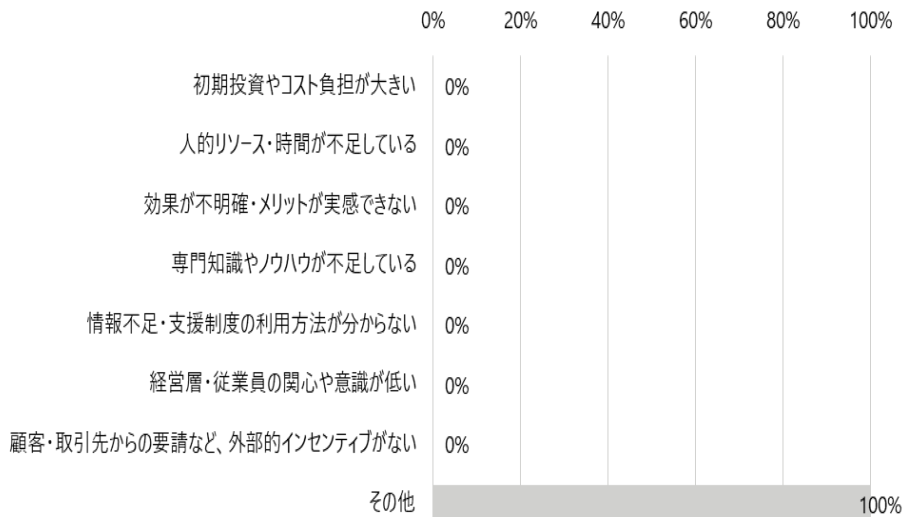
## アンケート結果 (4/8)



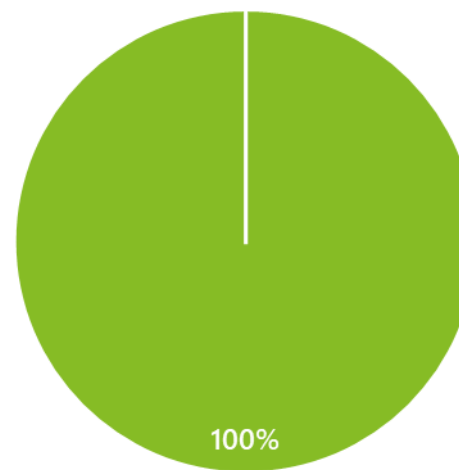
■ 省エネ取組を検討していない理由を選択してください。(複数選択可)

■ 今後の省エネ検討の意向はあるかを選択してください。

(N = 4)



(N = 4)



■ ない

「その他 (自由記載)」\*原文引用

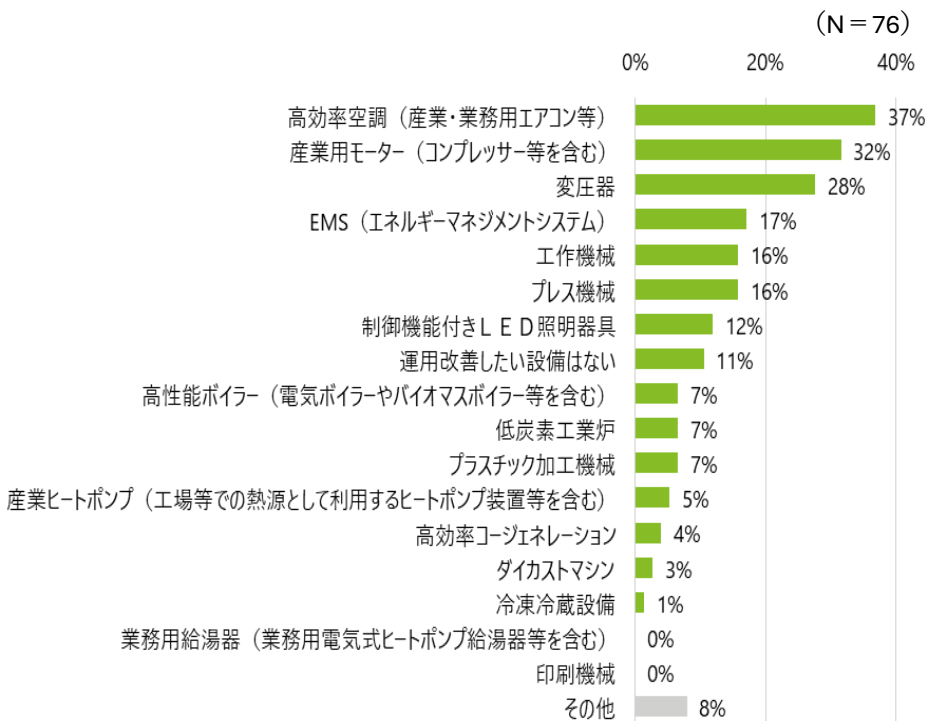
県内企業の省エネを支援する機関のため/県内企業の省エネを支援する立場のため/自治体のため該当なし/弊社工場、自社ビルではない為

# 今後運用改善をしたい、3年以内に投資改善したい設備として、共に高効率空調が最多となり、次いで産業用モーターや変圧器が多くなった

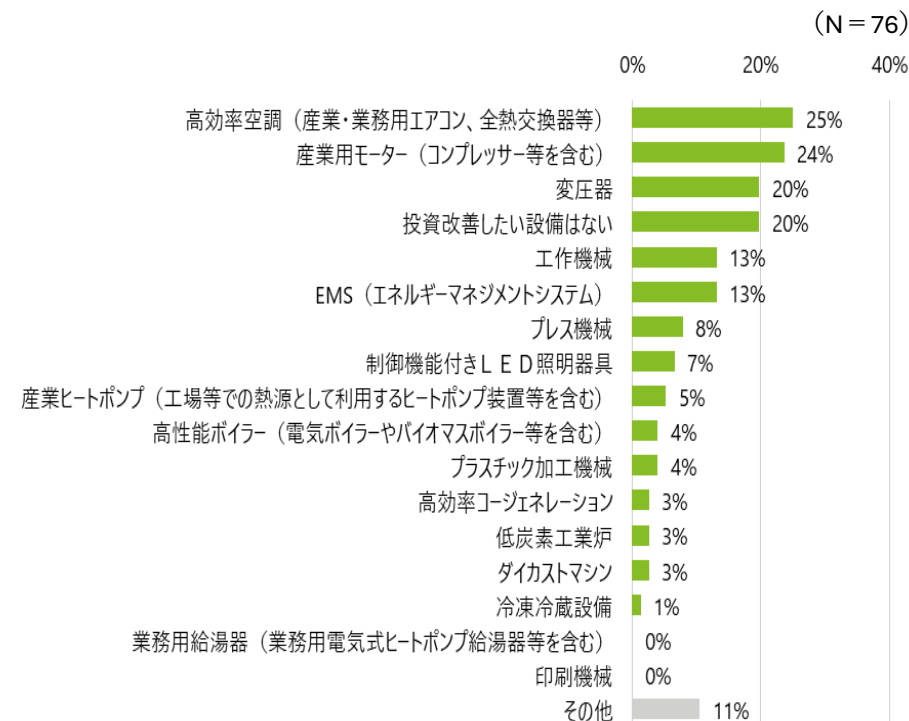
## アンケート結果 (5/8)

- ① 企画調整
- ② ニーズ把握
- ③ サミットの開催
- ④ 取りまとめ

■ 今後運用改善したい設備を選択してください。(複数選択可)



■ 今後3年以内に投資改善したい設備を選択してください。(複数選択可)



**「その他 (自由記載)」\*原文引用**

支援機関のため特になし/ 事務所のみ管理/ 専用機/自治体のため設問に沿う回答がありません/直接の担当ではないため詳細は不明です。/直接の担当ではないため詳細は分かっておりません

**「その他 (自由記載)」\*原文引用**

事務所のみ管理/自治体のため設問に沿う回答がありません/ 商社であり、製造設備を有しておりません。/ 設備投入の立案部署でなく、その立場にないため/ 調査してみないとわからない/直接の担当ではないため詳細は不明です。/ 直接の担当ではないため詳細は分かっておりません。/ 予算により検討したい

# 年間の電気代として、5,000万円以上が38%、燃料代については3,000万円以上が25%と最多となった

## アンケート結果（6/8）

①企画調整

②ニーズ把握

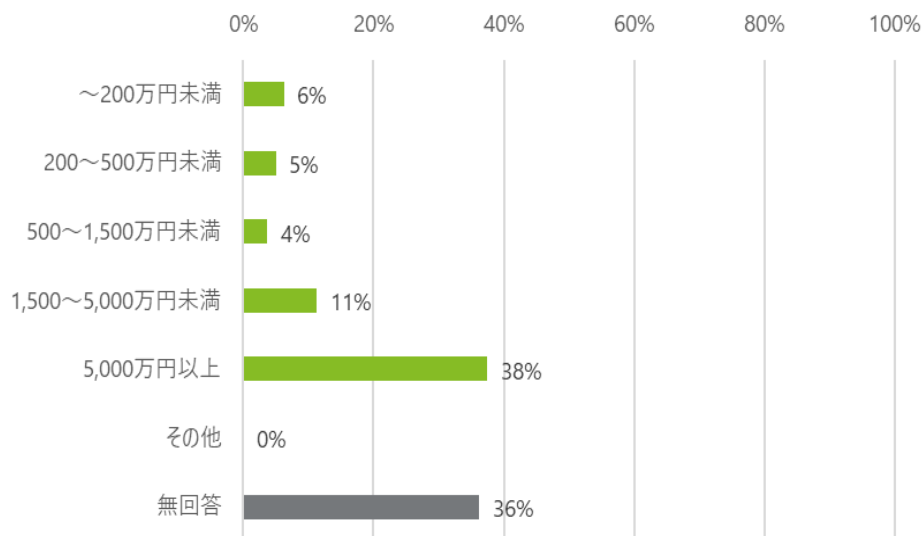
③サミットの開催

④取りまとめ

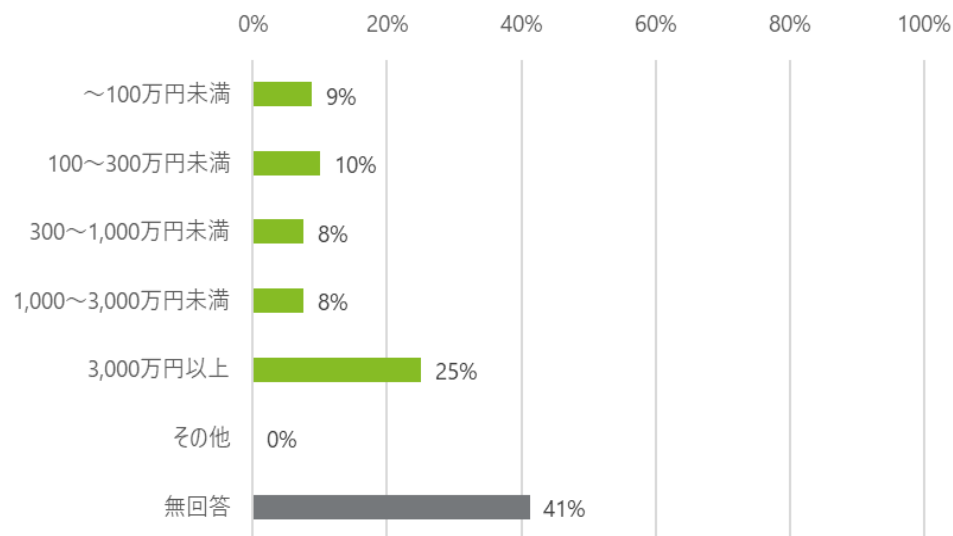
■ 【任意】 年間の電気代を選択してください。

■ 【任意】 年間の燃料代を選択してください。

(N = 80)



(N = 80)



\* 任意回答のため、無回答も含めて集計

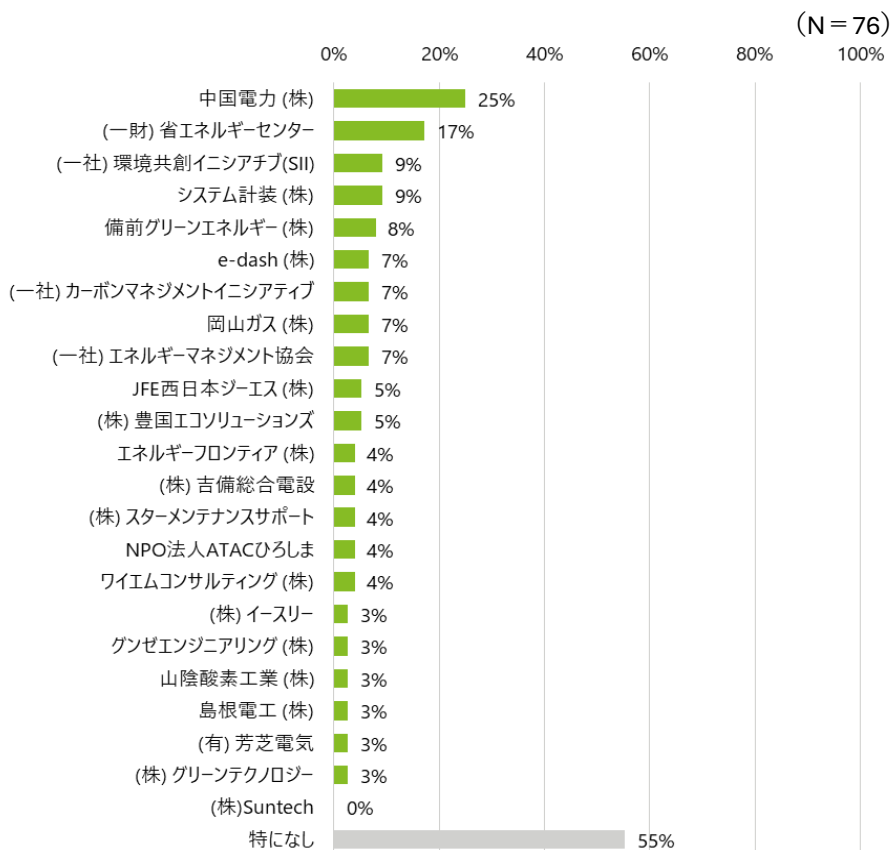
\* 任意回答のため、無回答も含めて集計

# 話を聞きたい支援機関として、中国電力が25%、期待するサポートについては補助金申請支援が46%と最多となった

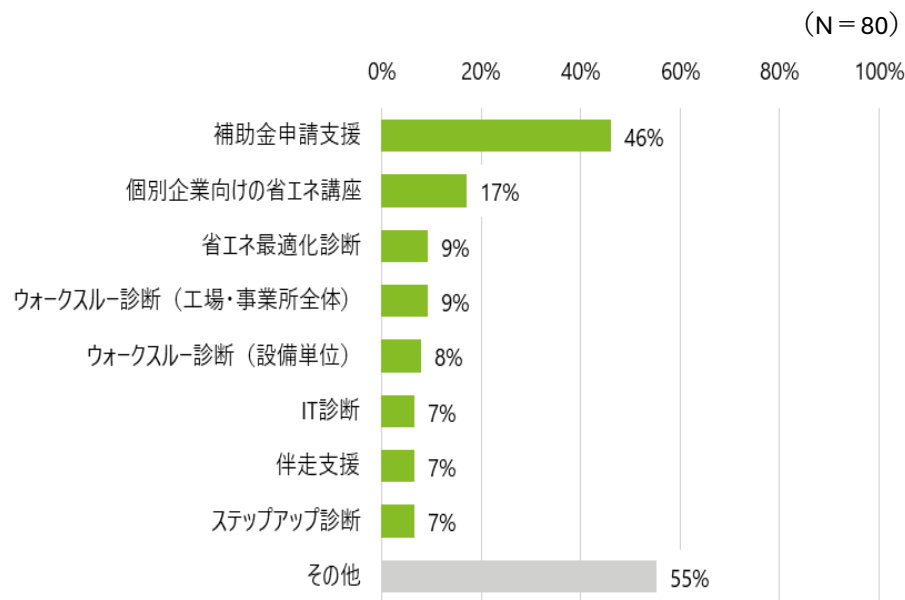
## アンケート結果 (7/8)

- ① 企画調整
- ② ニーズ把握
- ③ サミットの開催
- ④ 取りまとめ

■ 話を聞きたいパートナー省エネ支援機関名を選択してください。(複数選択可)



■ パートナー機関に期待するサポートを選択してください。(複数選択可)



「その他(自由記載)」\*原文引用  
 現時点 特になし/ 現時点希望ありません/ 支援機関のため特になし/ 事務所のみ管理/ 自治体のため設問に沿う回答がありません/ 特にございません/ 特になし/ 排出係数改善の見通し・計画/ 補助金申請できる設備があるか調査して見ないとわからない

# サミットへの参加については、76%が希望し、希望しない理由としては、日程の都合上難しいというものが主であった

## アンケート結果 (8/8)

①企画調整

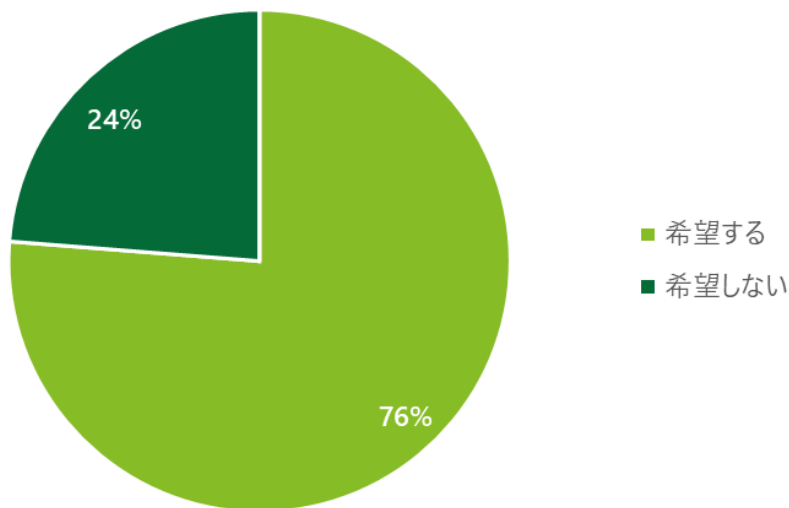
②ニーズ把握

③サミットの開催

④取りまとめ

### ■ サミット参加希望について選択してください。

(N = 80)



### ■ サミットへ参加を希望しない理由を入力してください。

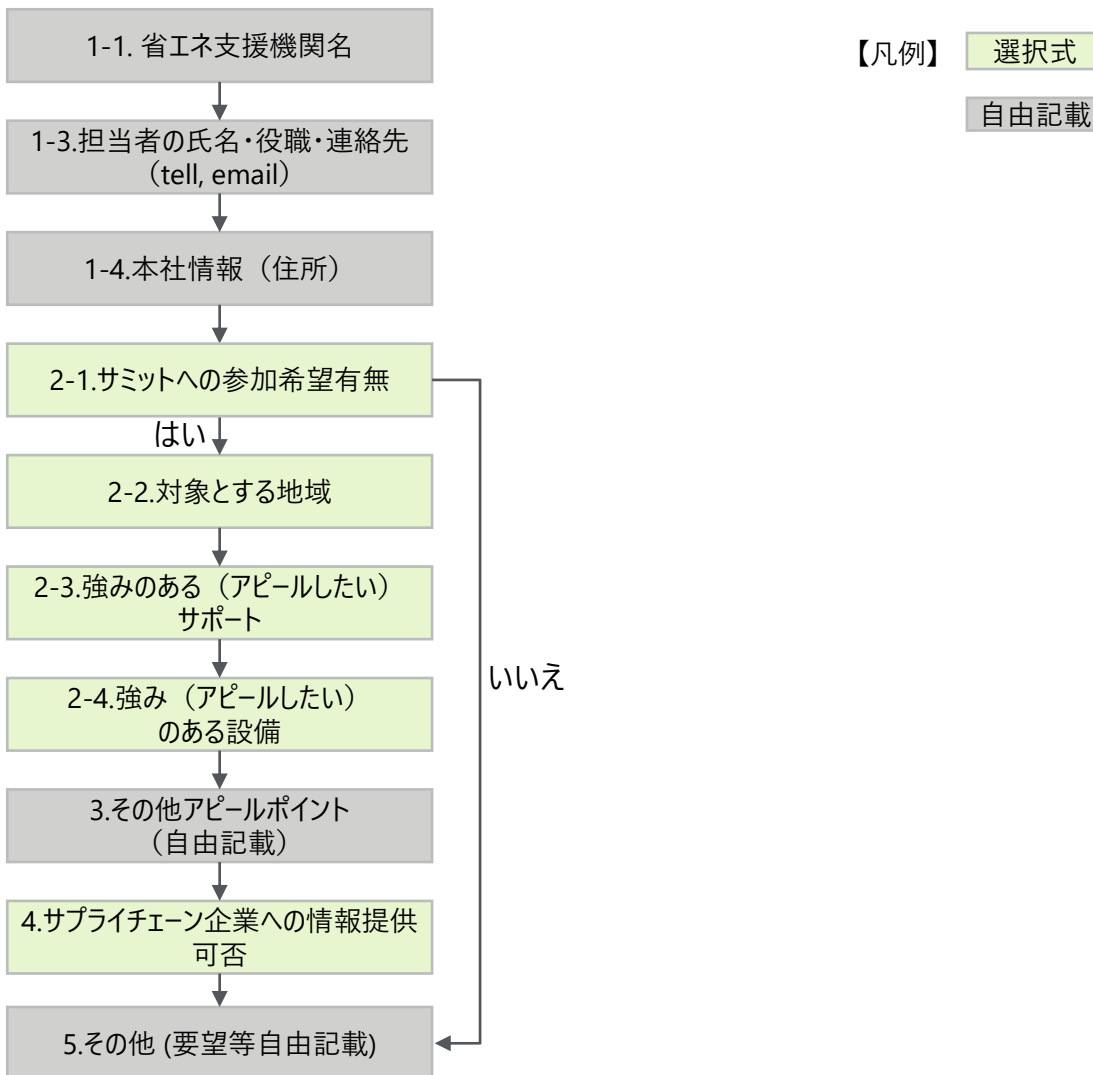
\* 原文引用

(N = 14)

- 運用や投資などの選定及び立場にないため
- 業務上の都合のため
- 現状の把握ができていない為、現段階で相談できない状況です
- 現時点では興味がありません
- 本社工場の所在地が九州（大分県）のため。中国地方には広島県に営業所が一か所あるのみで生産活動は行っていません。
- すでに独自で省エネ対策を立案しているため
- 日程が合わない為、今回は不参加とさせていただきます。
- マツダ様からのLCA勉強会に毎月1回参加、またCN説明会がwebで開催される場合は参加しているため
- その他業務の都合による
- 設備保全点検・工事等があるため
- 作業員への安全教育と重なるため。
- 参加してみたいですが日程的に難しい可能性がある為。
- サミットが何かわからない
- 弊社は商社の為、省エネ効果製品等の販売は行いますが、自社の省エネとしましては、節電が主で以前より取り組んでいる為。

# 省エネ支援機関の特徴を把握するため、支援対象とする地域や業種、取り組む方針（STP）について確認した

## 省エネ支援機関アンケート全体像



# 強みある設備については、一般社団法人環境共創イニシアチブ（SII）の省エネ・非化石転換補助金における補助対象設備の分類をした

## 省エネ支援機関アンケート項目詳細

①企画調整

②ニーズ把握

③サミットの開催

④取りまとめ

アンケート設問	選択肢
2-1.サミットへの参加希望有無	①はい、②いいえ
2-2.対象とする地域	①鳥取県、②島根県、③岡山県、④広島県、⑤山口県、⑥中国地方全体、⑦その他
2-3.強みのある（アピールしたい）サポート（3つを選択）	①個別企業向けの省エネ講座、②IT診断、③ウォークスルー診断（設備単位）、④ウォークスルー診断（工場・事業所全体）、⑤省エネ最適化診断、⑥伴走支援、⑦ステップアップ診断、⑧補助金申請支援、⑨その他
2-4.強みのある（アピールしたい）設備（上位3つを選択）	①高効率空調（産業・業務用エアコン、全熱交換器等）、②産業ヒートポンプ（工場等での熱源として利用するヒートポンプ装置等を含む）、③業務用給湯器（業務用電気式ヒートポンプ給湯器等を含む）、④高性能ボイラー（電気ボイラーやバイオマスボイラー等を含む）、⑤高効率コージェネレーション、⑥低炭素工業炉、⑦変圧器、⑧冷凍冷蔵設備、⑨産業用モータ（コンプレッサー等を含む）、⑩制御機能付きLED照明器具、⑪工作機械、⑫プラスチック加工機械、⑬プレス機械、⑭印刷機械、⑮ダイカストマシン、⑯EMS（エネルギーマネジメントシステム）、⑰その他
4.今回の回答結果をサプライチェーン企業への情報提供してよいか	①はい、②いいえ

# 中国GX・サプライチェーン・サミットは、2025年11月26日にマツダ本社講堂にて開催し、資源エネルギー庁、中国経済産業局、マツダの講演とパートナー機関との相談会を実施した

## 中国地域GX・サプライチェーン・サミット概要

①企画調整

②ニーズ把握

③サミットの開催

④取りまとめ

### 開催日時

2025年11月26日（水）13:00～16:30  
（受付開始（会場）12:00～（省エネ支援機関は11:30～）、講演 13:00-14:00、パートナー機関との省エネ相談会 14:00-16:30）

### 場所

マツダ本社「講堂」（広島県安芸郡府中町新地3番1号）

### 参加者※1

マツダ、サプライヤ企業、パートナー機関（金融機関及び省エネ支援機関）、自治体、その他機関  
※1 事前に申し込みをされた団体が対象

### 議事

- ① 13:00～13:05 **「開会挨拶」**
  - 中国経済産業局長 林 揚哲 氏
- ② 13:05～13:25 **「省エネ政策の動向」**
  - 経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー課長 福永 佳史 氏
- ③ 13:25～13:35 **「中国地域の取組状況」**
  - 中国経済産業局 エネルギー対策課長 高橋 宏治 氏
- ④ 13:35～13:55 **「マツダのサプライチェーンにおけるカーボンニュートラルに向けた取り組み」**
  - マツダ株式会社 技術本部 本部長 藤崎 周二 氏
- ⑤ 14:00～16:30 **「パートナー機関との省エネルギー相談会」**

# 本サミットには、マツダ株式会社と報道機関からの参加者を除き、68の団体、合計139人が参加した

## 参加者集計

①企画調整 > ②ニーズ把握 > ③サミットの開催 > ④取りまとめ

分類	参加団体数	参加人数
サプライチェーン企業	43	74
省エネ支援機関	11	24
金融機関・自治体・事務局	14	41
合計	68	139

※上記人数には、マツダ株式会社と報道機関からの参加者は含まれていない

# 事前のアンケート結果等を基に、サプライチェーン企業と省エネ機関との相談会のタイムテーブルを作成し、1対1での相談ができる時間を確保の上、相談会を実施した

## パートナー機関との省エネルギー相談会概要

①企画調整

②ニーズ把握

③サミットの開催

④取りまとめ

### 【⑤パートナー機関との省エネルギー相談会】

- ▶ 本相談会では、**サプライチェーン企業の省エネに関する相談と取組の促進を目的**に実施した。相談会では、省エネ支援機関との関係構築やサプライチェーン企業の省エネに関する運用、投資、社内の意識醸成等について1対1での相談を実施した。
- ▶ 相談会のタイムテーブルに基づき、各ブースを自由に訪問いただいた。タイムテーブルで決められた時間以外は、自由に各ブースを訪問いただき、名刺交換や相談を実施した。
- ▶ 金融機関や自治体等については、取引先や関連のある企業が参加されている場合、省エネ支援機関とのマッチング時に同席いただいた。

- 当社では補助金申請のノウハウ実績を有しているので、詳細をお伺いさせてほしい
- 当社では、XXXというやり方で改善や個別の省エネ講座等も対応している 等

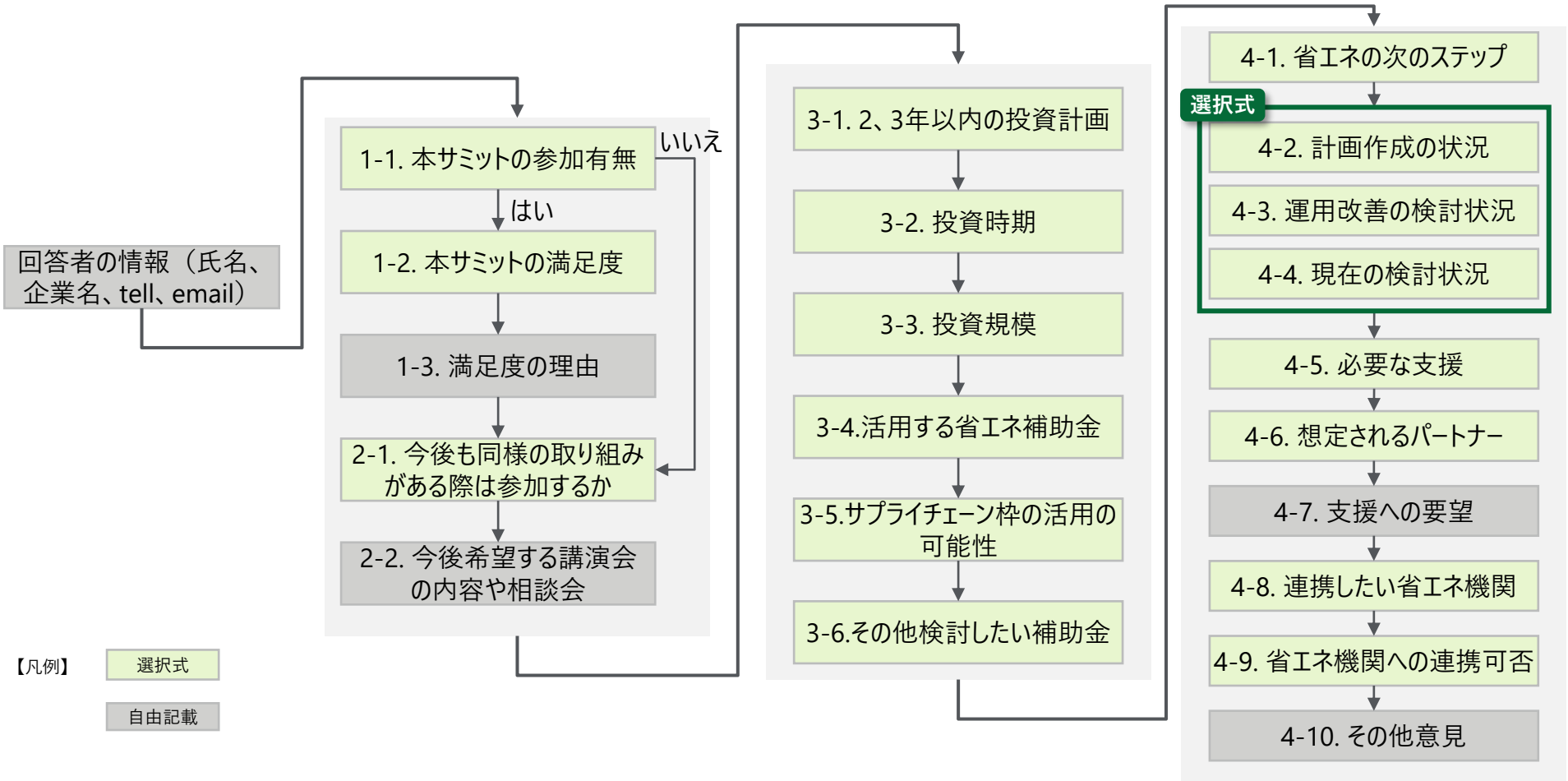


- コンプレッサーを更新したいが、補助金申請の支援は可能か
- 空調の運用改善をしたいが、どのように進めればよいかわからない
- 社内に専門家が少ないので、社内の意識向上等でよい方法はないか 等

# サミット開催後に、サミットの感想と今後の設備への投資計画等を把握するため、事後アンケートを実施した

## 事後アンケート全体像

①企画調整 → ②ニーズ把握 → ③サミットの開催 → ④取りまとめ



# サミットへの満足度の確認の他、活用を想定している補助金とサプライチェーン枠への変更の可能性について確認した

## 事後アンケート項目詳細 (1/2)

①企画調整 > ②ニーズ把握 > ③サミットの開催 > ④取りまとめ

アンケート設問	選択肢
1-2. 本サミットの満足度	①非常に満足した、②満足した、③やや不満だった、④不満だった
3-1.この2, 3年で計画している設備投資の内容を教えてください	①老朽化更新、②生産性向上、③新規設備投資、④IT投資、⑤特になし、⑥その他
3-2.検討されている中で省エネにつながりそうな投資について、投資時期について教えてください	①2026年6月以降、②2026年9月以降、③2026年12月以降、④2027年以降、⑤決まっていない、⑥その他
3-3.検討されている中で省エネにつながりそうな投資について、検討している投資の規模を教えてください	①～1,000万円、②1,000万円～1億円、③1億円～10億円、④10億円～、⑤決まっていない、⑥その他
3-4.省エネ投資の場合、補助金を活用するとしたら、どの類型に当てはまりますか	①Ⅰ型（工場・事業者型）、②Ⅱ型（電化・脱炭素燃転型）、③Ⅲ型（設備単位型）、④Ⅳ型（EMS型）、⑤省エネ投資ではない
3-5.Ⅰ型まで対象を広げ、サプライチェーン枠として補助金申請できる可能性、検討したい思いがありますか（3-4で③の回答者のみ）	①可能性がある、検討したい可能性がある、検討したい、②Ⅲ型でそのまま申請したい
3-6.その他、検討したい補助金制度はありますか	①中堅・中小企業の賃上げに向けた省力化等の大規模成長投資補助金、②中小企業成長加速化補助金、③中小企業省力化投資補助金（カタログ注文型・一般型）、④IT導入補助金、⑤ものづくり補助金、⑥中小企業生産性革命推進事業【事業承継・M&A補助金】、⑦小規模事業者持続化補助金、⑧新事業進出補助金、⑨補助金制度全般の概要を学びたい、⑩その他

※選択肢が「はい」、「いいえ」のみの設問は割愛

# 省エネへの取組状況について、各企業のステップに合わせた状況と必要な支援について確認した

## 事後アンケート項目詳細 (2/2)

①企画調整

②ニーズ把握

③サミットの開催

④取りまとめ

アンケート設問	選択肢
4-1.省エネの次のステップをどのように考えていますか	①設備計画を立てたい、②運用改善を進めたい、③活動の基盤となる人材育成、仕組みづくりを進めたい、④見える化を進めたい、⑤特に活動の必要はない
4-2.計画作成の状況を教えてください (4-1で①の回答者のみ)	①作成中、②これから取り組みたい
4-3.運用改善の検討状況を教えてください (4-1で②の回答者のみ)	①運用改善に取り組んでいるがなかなか成果が出ない、継続できない、②運用改善に取り組んでいるネタがなくなってきた、③運用改善にこれから取り組みたい
4-4.検討状況を教えてください (4-1での③の回答者のみ)	①人材育成、省エネを進める仕組みはあるがなかなか成果が出ない、②これから取り組みたい
4-4.検討状況を教えてください (4-1での④の回答者のみ)	①省エネ診断を受けたことがあるが、上手く活用できなかった、②常時見える化などIT診断に興味がある、③受けたことがない
4-5. 必要な支援を教えてください	①サプライチェーン枠活用のための仲間づくり、②補助制度の書類作成支援、③省エネ投資計画の作成支援、④運用改善の技術・事例の提供支援、⑤運用改善の手順・仕組みの支援、⑥人材育成・体制整備支援、⑦省エネ診断、⑧支援は必要ない、⑨その他
4-6. 支援先として想定しているパートナー	①マツダ株式会社、②パートナー省エネ機関、③パートナー金融機関、④行政
4-8.今後の連携したい省エネ支援機関やお話を伺いたい省エネ支援機関を教えてください	中国地域を対象とする省エネ支援機関 23団体

※選択肢が「はい」、「いいえ」のみの設問は割愛

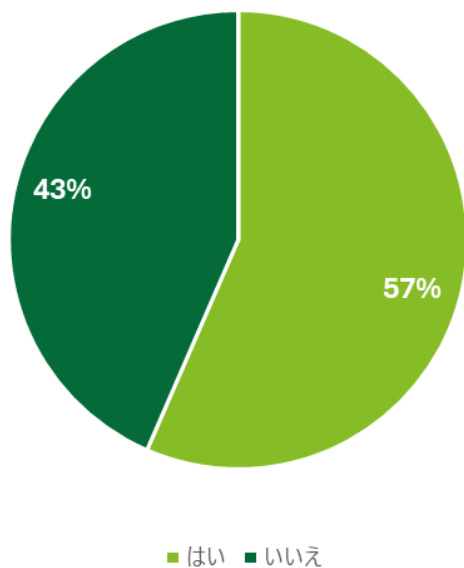
# サミットへは、回答者の57%が参加し、明確な不満を示した参加者は8%にとどまった

## アンケート結果 (1/10)



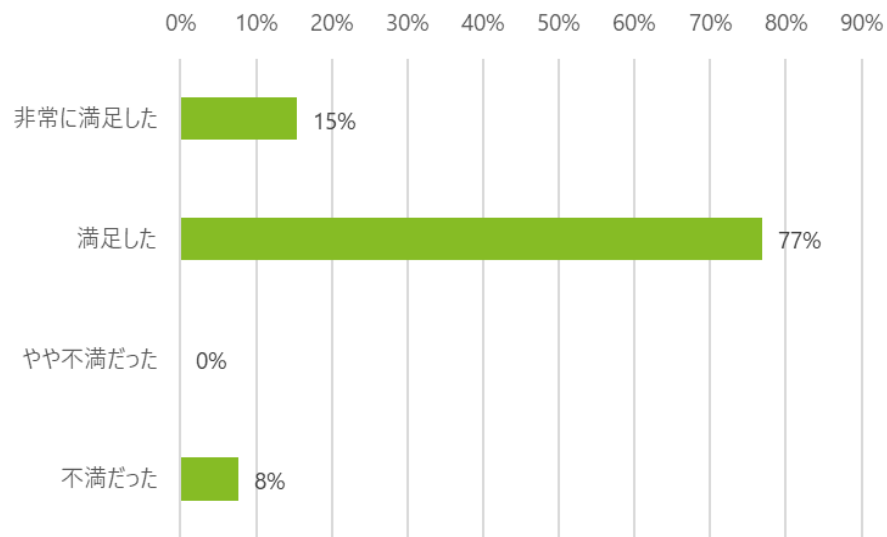
■ 本サミットに参加されましたか。

(N = 23)



■ 本サミットの満足度を選択してください。

(N = 13)



# 満足度として、マツダ様の講演が好評を博し、今後の同様の取組への参加希望は91%となった

## アンケート結果 (2/10)

①企画調整

②ニーズ把握

③サミットの開催

④取りまとめ

■ 上記の満足度を選択した理由をご記載ください。

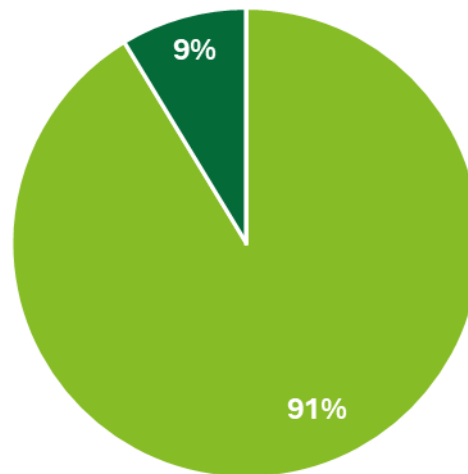
\* 原文引用

(N = 12)

- 講演会は非常に参考になり、内容もわかりやすく、有意義な時間となりました。一方で、パートナー機関との省エネ相談会は、時間をかけた割には十分な成果が得られませんでした。もう少し具体的な提案や、こちらの状況に即したアドバイスがあると、より実りある相談になると感じました。
- マツダ様より「サプライチェーン全体の省エネを一番ピンとして共通認識としたい」と説明があり、改めて省エネ活動を推進していく必要性を感じ、社内報告にも説得力が生まれた。
- 中国地域全体で脱炭素に向けたエネルギー基盤を共有する動きや、自治体・金融機関の支援体制について具体的な事例を知ることができました。
- 今まで敬遠していた相談会を事前のアンケートから面談設定をしてもらえたこと
- 特に、国の取組み・マツダ(株)の考え方 & 取組みが聞けて良かったと思います。
- マツダさんの取組状況を確認できたことがよかった。
- 経済産業局、その他話を聞き、現在のCN取組み状況が把握できたこと、補助金対象について相談したいことの確認ができたこと。
- 打合せ予定の会社が不在でした。
- 現在の立ち位置や、同業他社の進め方、悩みが聞けたのがよかった
- 補助金申請支援する機関に巡り合わせていただいた為
- マツダ様のCN目標達成のための活動方針や取組み事例及び、省エネ支援機関の各種診断内容がよく理解出来ました。

■ 今後も同様の取組がある際は、参加を希望しますか。

(N = 23)



■ はい ■ いいえ

# 今後開催する際の希望としては、補助金に関する相談会が多く、2、3年内の設備投資とは、老朽化更新が61%と最多となった

## アンケート結果 (3/10)

■ 今後希望する講演会や相談会の内容がございましたら、ご記入ください。

\*原文引用

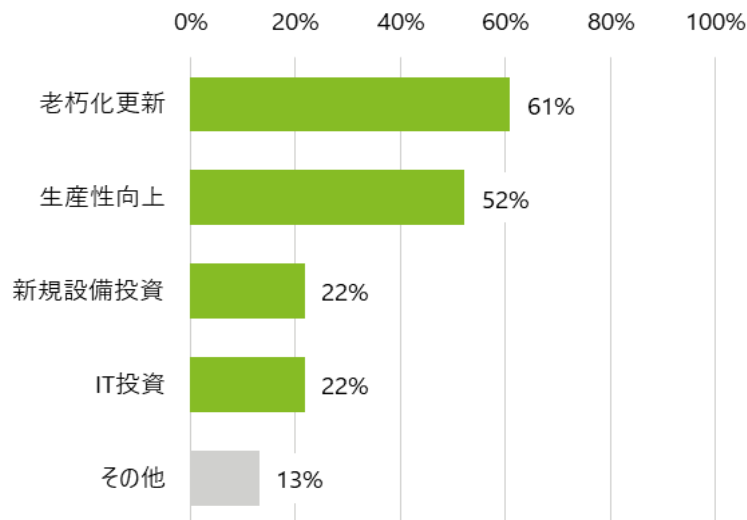
(N = 10)

- マッチングのない講演会(取り組み事例説明会)。もしくはマッチングを希望するしないを選択できる講演会。
- 補助金関係は自分たちでは全てが把握できないので、今回のサミットより少し早い時期に今回のような催しを開催してほしい。(次年度の補助金手続きに間に合うように)
- 2050年に向けた「再エネ」「Jクレジット」の動向
- 補助金に関する相談会や申請に関する相談会
- 今時点とくにありません
- 取組企業の実例やCN実現に向け新たな投資に対する補助金・助成金の活用事例など
- 再エネ補助金、規制がかかる屋根置き太陽光についての今後
- 特に無し
- 省エネ設備投資、助成金の情報など
- 省エネ補助金申請に関する相談会や、省エネ技術改善紹介等の講演会があれば参加させて頂きたいです。

①企画調整 > ②ニーズ把握 > ③サミットの開催 > ④取りまとめ

■ この2、3年で計画している設備投資の内容を教えてください。(複数)

(N = 23)



「その他 (自由記載)」\*原文引用  
受変電設備更新/ 未定/ 様々検討中

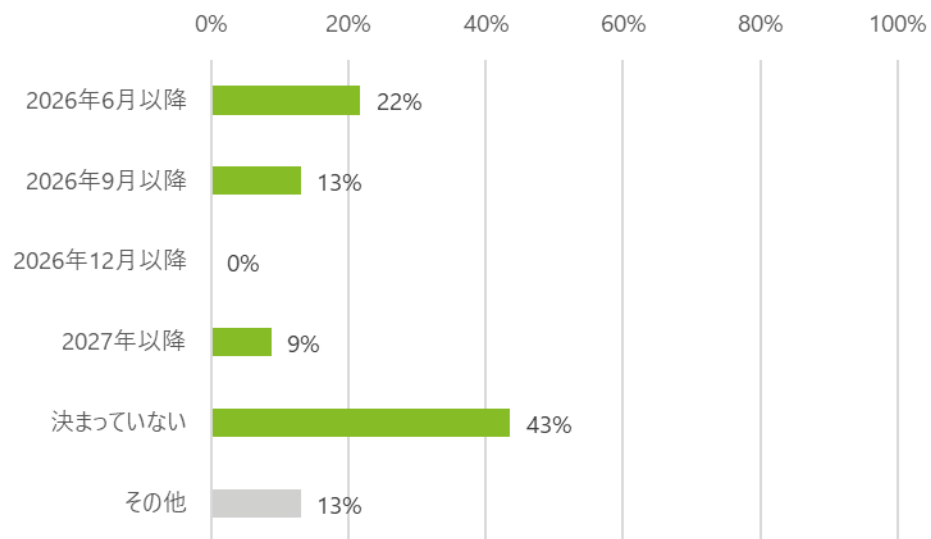
# 検討中の投資時期として、決まっていないを除けば、2026年6月以降が22%、投資規模は1,000万円～1億円が35%と最多となった

## アンケート結果 (4/10)



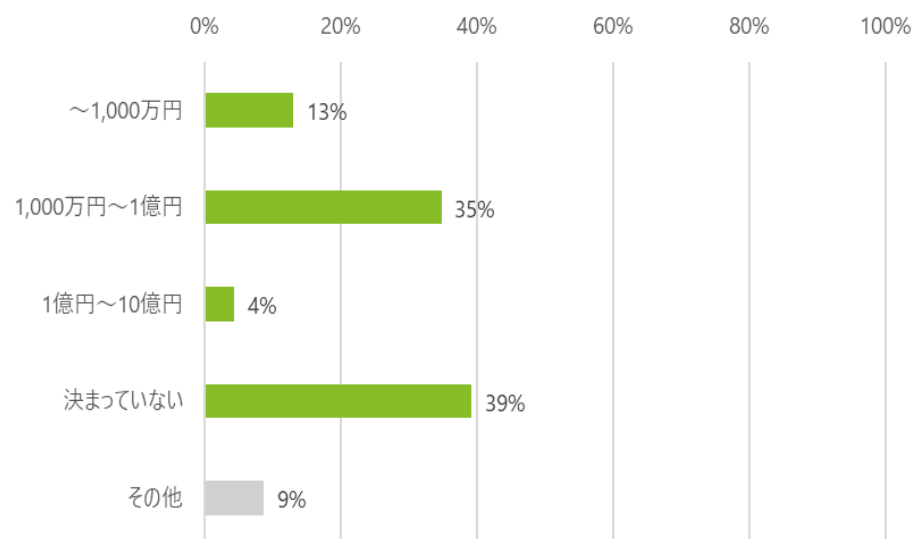
■ 検討されている中で省エネにつながりそうな投資について、投資時期について教えてください。

(N = 23)



■ 検討されている中で省エネにつながりそうな投資について、検討している投資の規模を教えてください。

(N = 23)



「その他（自由記載）」\*原文引用  
2025年から実施中/ 動力トランス更新他/ 未定

「その他（自由記載）」\*原文引用  
費用対効果による

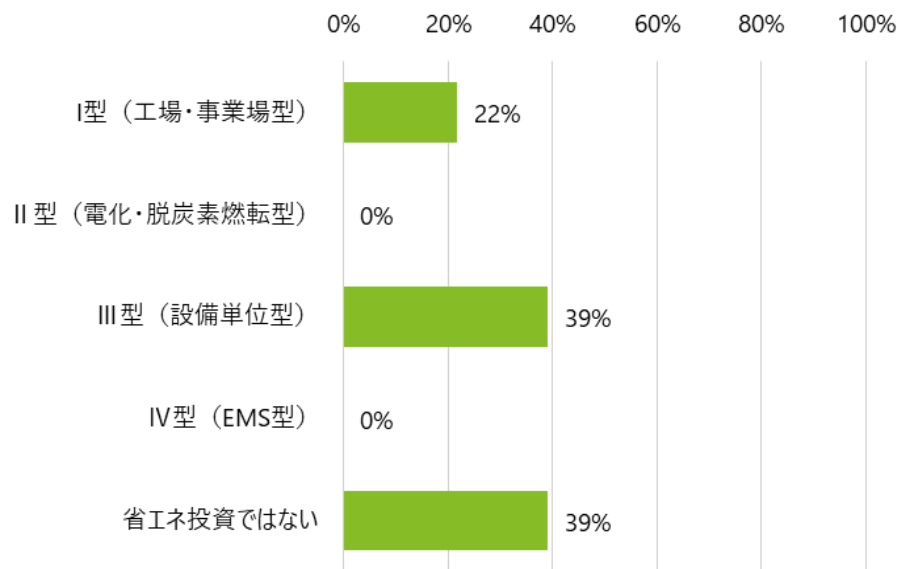
# 補助金活用時の種類として、Ⅲ型と省エネ投資ではないが39%、Ⅲ型を選んだ中での拡大申請の検討希望については、Ⅲ型でそのまま申請したいが88%と最多となった

## アンケート結果 (5/10)

- ① 企画調整
- ② ニーズ把握
- ③ サミットの開催
- ④ 取りまとめ

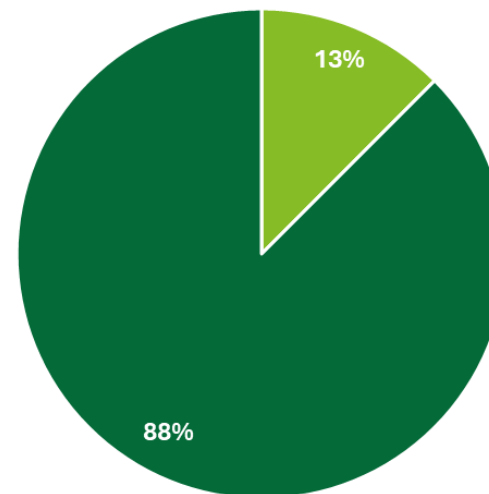
■ 省エネ投資の場合、補助金を活用するとしたら、どの類型に当てはまりますか。

(N = 23)



■ I型まで対象を広げ、サプライチェーン枠として補助金申請できる可能性、検討したい思いがありますか。

(N = 8)



- 可能性はある、検討したい
- III型でそのまま申請したい

\* 小数点以下の繰り上げのため、合計101%となっている

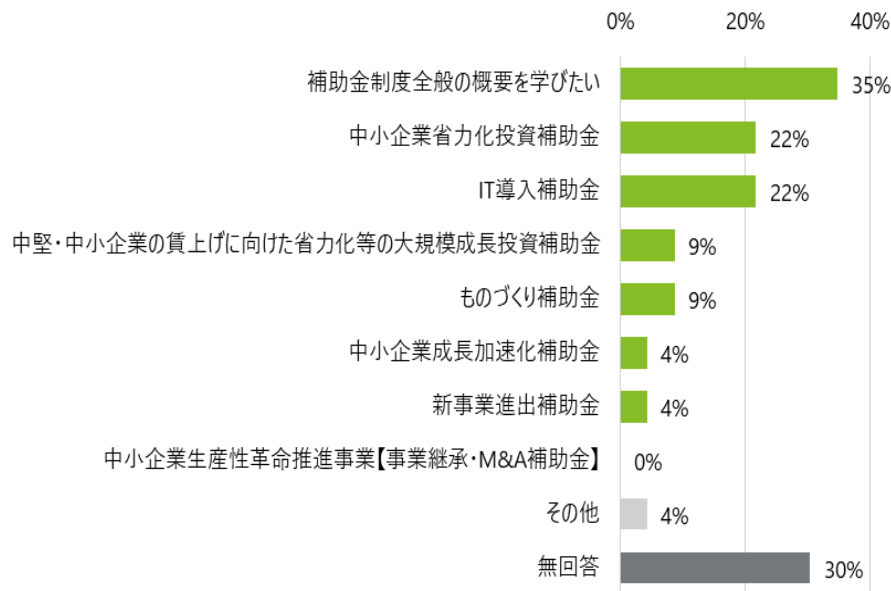
# 検討したい補助金制度として、補助金制度の概要を学びたいが35%、省エネ後のステップは見える化を進めたいが52%と最多となった

## アンケート結果 (6/10)



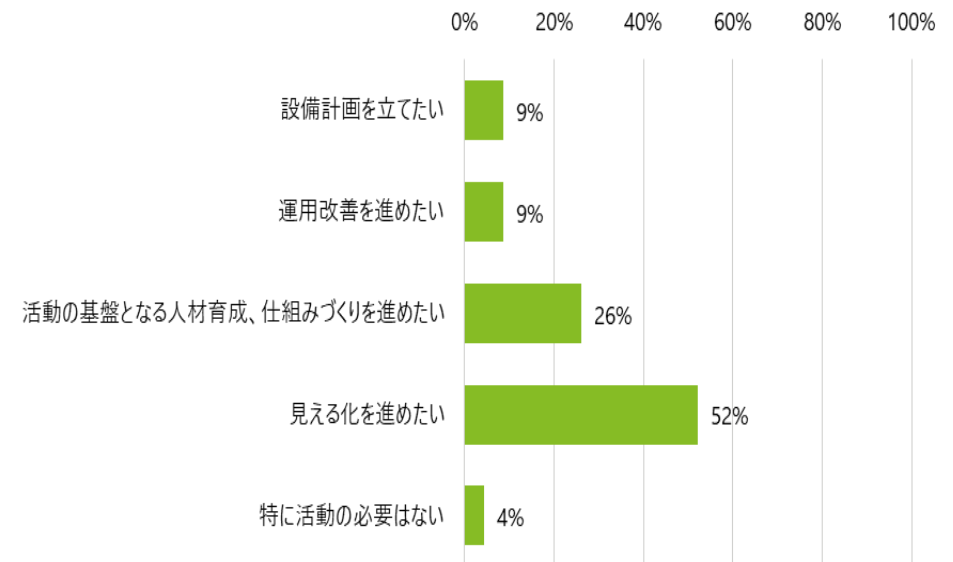
■ その他、検討したい補助金制度はありますか。(任意、複数回答)

(N = 23)



■ 省エネの次のステップをどのように考えていますか？優先度の高い活動を1つ挙げてください。

(N = 23)



\* 任意回答のため、無回答も含めて集計

「その他（自由記載）」\*原文引用  
概要拝見する限り全て適用外

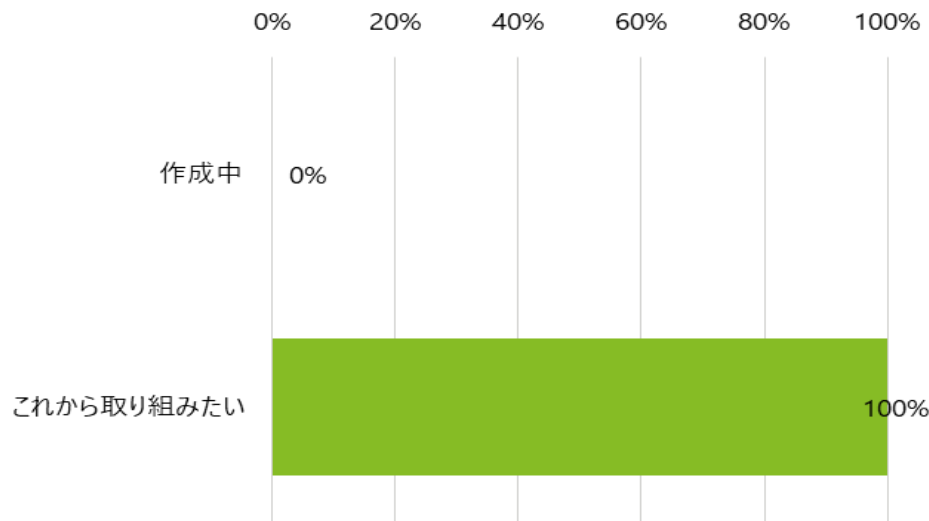
# 設備計画を立てたい企業の中では、これから取り組みたいが100%、運用改善を進めたい 中では、なかなか成果が出ない及び取り組みネタがなくなってきたが50%ずつとなった

## アンケート結果 (7/10)



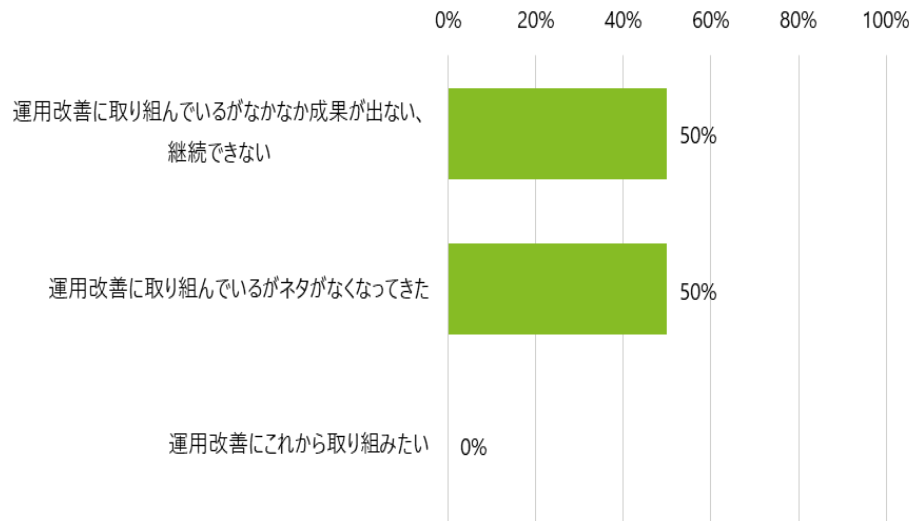
■ 計画作成の状況を教えてください。

(N = 2)



■ 運用改善の検討状況を教えてください。

(N = 2)



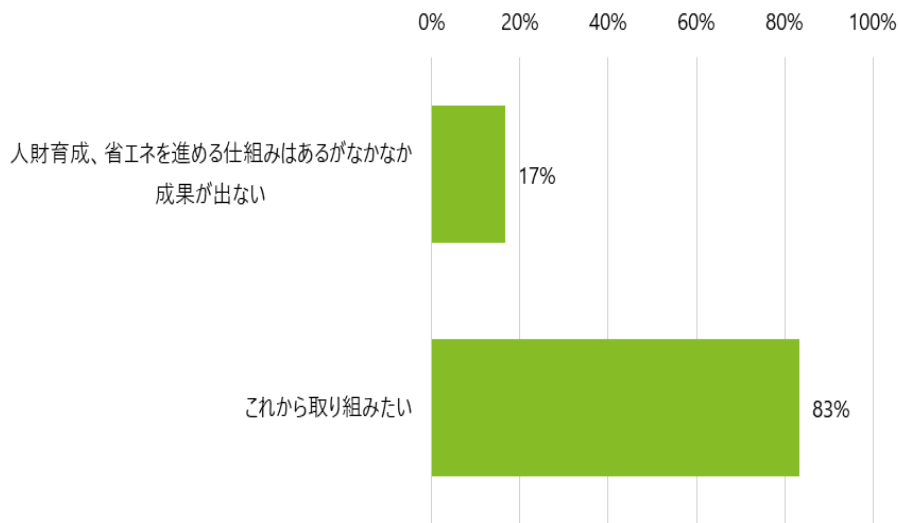
# 人材育成、仕組みづくりを進めたい企業の中では、これから取り組みたいが83%、見える化を進めたい中では、常時見える化などIT診断に興味がある、が75%と最多となった

## アンケート結果 (8/10)



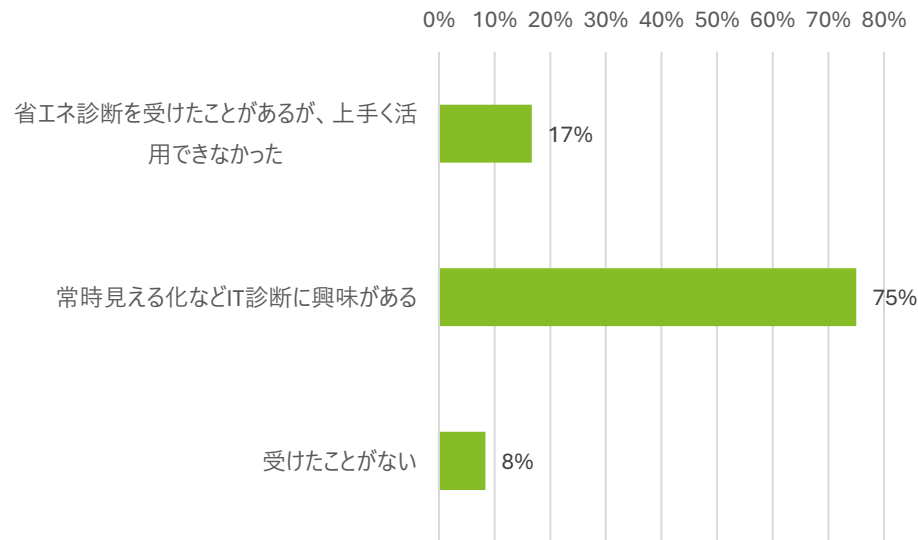
■ 検討状況を教えてください。

(N = 6)



■ 検討状況を教えてください。

(N = 12)



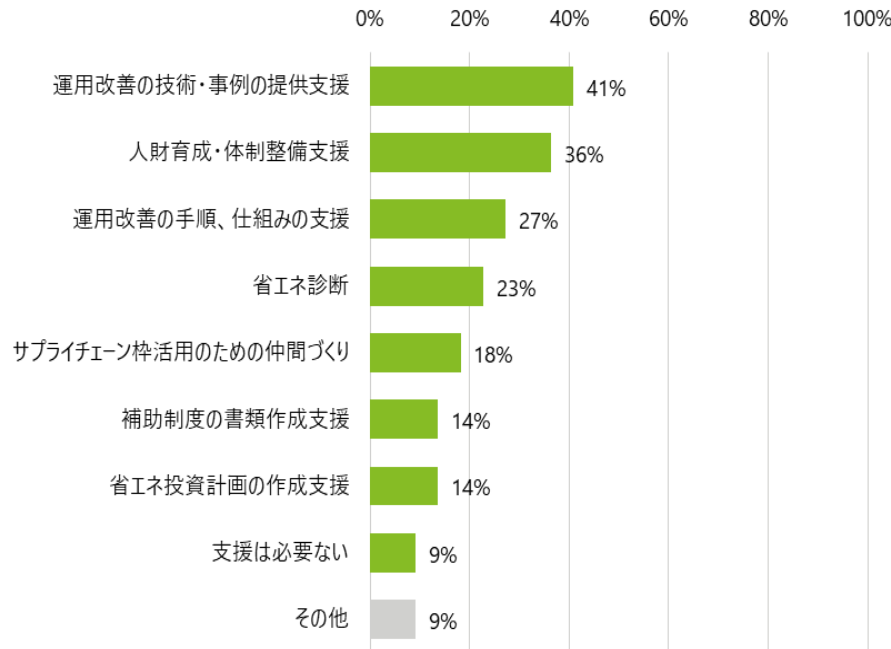
# 必要な支援として、運用改善の技術・事例の提供支援が41%、想定している支援先パートナーはマツダ株式会社74%と最多となった

## アンケート結果 (9/10)



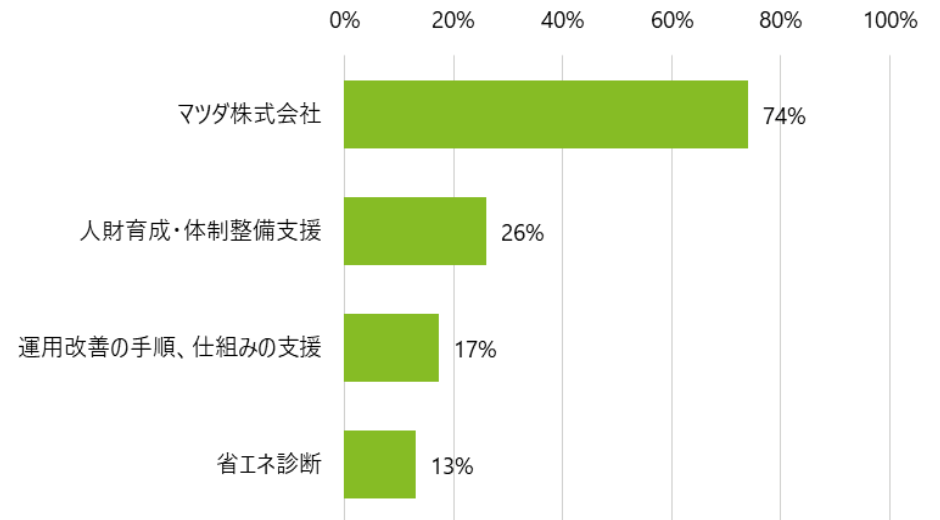
### ■ 必要な支援を教えてください。(複数選択可)

(N = 22)



### ■ 支援先として想定しているパートナー (複数選択可)

(N = 23)



「その他 (自由記載)」\*原文引用

特に無し/ 弊社内で検討中

# 支援内容の具体例として、CFPに関する情報提供が、サミット全般への意見としては、概ね好評をいただいた

## アンケート結果 (10/10)

①企画調整

②ニーズ把握

③サミットの開催

④取りまとめ

### ■ 支援内容の希望等、何かございましたらご記入ください。

\* 原文引用

(N=4)

1. CFP算定に関する詳細情報
2. 各種セミナー等
3. 現在は模索中で特になし
4. 特になし

### ■ その他、本サミット含めて全般に関するご意見をご記載ください。

\* 原文引用

(N=8)

- 講演内容はとても参考になりましたが、省エネ支援機関とのマッチングを前提とした活動では少々参加しづらいと感じました。予算が潤沢にあるわけではなく、むしろほぼゼロな企業さんが多いと思うので、現時点で話を聞いてもあまり意味がなくお互いに損なことが起こり得る気がします。とはいえ「マッチングを前提とした支援サミット」にももちろんニーズはあると思いますので、「説明や解説、事例紹介を前提としたサミット」のようなパターンもあれば嬉しいです。
- サプライチェーン全体での脱炭素化において、中小企業への支援が不可欠であるという点が強調されており、安心感を持ちました。今後は、コスト負担の公平な分担ルールなどを期待します。
- 省エネは社内ですることは一通りやっていて、中々削減効果も出なくどうしたらよいかと思っていたので、今回のサミットが開催されたことで、補助金の活用面で上役の方も関心がでてきたので大変良い機会だったと思います。
- 特になし
- 省エネ施策についての今の現状（サプライヤー全体でのCO2排出量など）
- 広島で、さきがけとして試みられていると思いますが、全国展開に繋がってほしいと思います。
- 特になし
- 大変有意義なサミットでした。専門性の高い企業様と面談し情報交流出来、大変参考になりました。引き続き、キッカケ・チャンスがあれば参加させて頂きたいです。

- ③ 省エネ・地域パートナーシップ育成強化事業
  - ③-1 省エネ診断の現地研修による育成事業
  - ③-2 省エネ伴走支援の実施を踏まえた支援ポイントの勉強会による育成事業
  - ③-3 先進事例及び育成講義に係る「先進・育成事例集」の作成

- ③ 省エネ・地域パートナーシップ育成強化事業
  - ③-1 省エネ診断の現地研修による育成事業
  - ③-2 省エネ伴走支援の実施を踏まえた支援ポイントの勉強会による育成事業
  - ③-3 先進事例及び育成講義に係る「先進・育成事例集」の作成

# 岡山県の大松精機にて、スターメンテナンスサポートの協力を得て、金融機関関係者が参加した実地研修を実施した

## 実施概要

項目	内容
開催日時	2025年10月17日（金） 13:30-16:00
場所	大松精機株式会社 （〒701-0105 岡山県倉敷市矢部232-1）
講師	・株式会社スターメンテナンスサポート ・大松精機株式会社
対象者	金融機関内で省エネ推進の中心となっている担当者 （例：省エネに関する取組の企画者、顧客担当（窓口）への省エネ相談や指導の実施者）
応募方法	WEBリンクもしくは2次元コードより、参加者を募った（1機関あたり2名まで）

# 事例紹介・座談会を組み合わせることで、省エネ補助金を活用した現場を見ながら、金融機関が現在抱える疑問を忌憚なく意見交換及び解消しあえる場を提供した

## 当日のアジェンダ

アジェンダ案		コンテンツ案
集合 & 移動 (13:00)		
13:30-13:35	開会挨拶とアジェンダ紹介(5')	開催に向けた挨拶【(開会挨拶) 中国経済産業局、(アジェンダ) トーマツ】
13:35-13:45	会社概要と実地研修概要(10')	会社概要と実地研修概要紹介【スターメンテナンスサポート】
13:45-15:15	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>Aグループ 実地研修(25')</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>Bグループ 事例紹介(35')</p> </div> </div>	<p>下記の内容に関して、<u>大松精機での事例(実地研修)</u>とスターメンテナンスサポートでの過去事例についてご紹介(事例紹介)をいただいた【スターメンテナンスサポート様】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 中小企業の現状に基づくエネルギーコスト削減(省エネ診断)の提案</li> <li>② 省エネ診断の具体的内容、診断の流れ及び実績</li> <li>③ 「省エネルギー投資促進支援事業費補助金(Ⅲ)設備単位型」の採択実績</li> <li>④ 大松精機第三工場の補助金活用による実績事例</li> <li>⑤ スターメンテナンスサポートによる省エネ診断及び診断に係るサポート体制</li> </ol>
	<p>移動は往復20分</p> <p>休憩は10分</p>	
座席配置変更(5')		
15:20-15:45	省エネ推進に関する座談会(25')	同業他社の取組状況等について、座談会形式で情報共有を行う
15:45-15:50	閉会挨拶(5')	閉会挨拶【中国経済産業局】
岡山駅移動(現地では片づけ&解散(16:00))		

# 実地研修では、大松精機の工場内を実際に回りながら、電気代の削減などの成果を観察した

## 当日の実施内容詳細：実地研修（1/2）

説明対象機器	説明内容
省エネ計測器	<ul style="list-style-type: none"><li>省エネ補助金は、機器の導入や改善の“前後”にて、<b>確実に省エネが実現されているのか</b>を測ることが重要となる</li><li>省エネ計測器で種々の値を計測し、経過を報告している</li></ul>
鉄板切断器	<ul style="list-style-type: none"><li>従来：CO2による切断を利用していたため環境に悪く、電気代がかさむ</li><li>現在：ファイバーによる切断に切り替えたことで、<b>機器全体の電気代が1/3に減少する</b> (大松精機第三工場では“切断”が事業の生命線のため、電気代の削減効果が大きい)</li></ul>
機械化	<ul style="list-style-type: none"><li>従来：部品のネジ穴開けやその後の仕上げ作業を人力で実施する</li><li>現在：<b>機械化</b>することで、人手の削減を達成。同時に“ものづくり補助金”を活用する<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 24時間稼働が可能なることによる、生産力の向上</li><li>✓ 溶接においても機械化を推進</li></ul></li></ul>

# 実地研修では、大松精機の工場内を実際に回りながら、省エネ診断などの成果を観察した

## 当日の実施内容詳細：実地研修（2/2）

説明対象機器	説明内容
レーザー切断機	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>省エネ診断</b>により購入（この種、規模の一体型では日本初の導入）する</li><li>• 従来：CO2による切断を利用していたため環境に悪く、電気代がかさむ</li><li>• 現在：ファイバーによる切断に切り替えたことで、<b>電気代とガス代の削減に成功</b>する<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 切断機に関するガス代はゼロ</li><li>✓ N<sub>2</sub>などの排出抑制</li><li>✓ 補助金により、1億8千万円のうち6千万円賄う</li></ul></li></ul>
コンプレッサー	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>省エネ診断</b>により、エア-漏れを発見する<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 一般的に、コンプレッサーには10~20%のエア-漏れが存在</li><li>✓ 僅かのため気づきにくいですが、省エネ診断によって発見可能</li></ul></li></ul>
変圧器	<ul style="list-style-type: none"><li>• 設備が古い場合、省エネ効率改善が見込まれる有力候補となる<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 「トップランナー制度」の対象</li><li>✓ 30年前の設備の場合、一般的に30~40%の省エネ効率が期待</li></ul></li></ul>

# 事例紹介や座談会では、中小企業の脱炭素への取組や省人化等を含めた提案、支店のモチベーションをあげることの重要性に関する意見があげられた

## 事例紹介や座談会で出た主なご意見

- 中小企業にとって、取引先に選ばれる基準として、品質・コストの次に環境への取組を行っている企業が選択される傾向がでてきているため、脱炭素への取組は大事だと考える
- ただし、中小企業に脱炭素を前面にした提案は伝わらないことが多いため、省人化等の提案として、結果として脱炭素になるような提案がよいかと思う
- このような提案は、スピード感が重要であり、話があった際はすぐに対応をすることが重要である
- 金融機関が取組を進める際には、支店のモチベーションを上げていくことが必要である
- 製造業の現場としては、省人化等、何でもよいので情動的や提案をいただけると助かる

- ③ 省エネ・地域パートナーシップ育成強化事業
  - ③-1 省エネ診断の現地研修による育成事業
  - ③-2 省エネ伴走支援の実施を踏まえた支援ポイントの勉強会による育成事業
  - ③-3 先進事例及び育成講義に係る「先進・育成事例集」の作成

# 勉強会は、エネルギーマネジメント協会を講師として、金融機関向けに省エネ地域パートナーシップや省エネ診断事例等に関する内容を説明いただいた

## 勉強会の概要

項目	内容
開催日時	12月5日（金）16:30-17:30
場所	オンライン（Teams）
講師	一般社団法人エネルギーマネジメント協会
対象者	パートナー機関（金融機関）の現場担当や企画部門

アジェンダ		コンテンツ
16:30-16:35	開会と全体アジェンダの説明(5')	勉強会の全体アジェンダの説明（中国経済産業局 & （司会進行）トーマツ）
16:35-17:10	勉強会(35')	勉強会（エネルギーマネジメント協会様） ① 省エネ地域パートナーシップとは ② 省エネ診断とは ③ 省エネの重要性の伝え方（金融機関として省エネの重要性をどう顧客に伝えるか（省人化、ランニングコスト削減等）） ④ 省エネ支援機関の連携メリット ⑤ エネルギーマネジメント協会の伴走支援の特徴、支援事例 ⑥ 令和7年度補正予算案
17:10-17:25	質疑応答(15')	事前質問（参加申し込み時に募集）と当日質問への回答
17:25-17:30	閉会(5')	閉会（トーマツ）

- ③ 省エネ・地域パートナーシップ育成強化事業
  - ③-1 省エネ診断の現地研修による育成事業
  - ③-2 省エネ伴走支援の実施を踏まえた支援ポイントの勉強会による育成事業
  - ③-3 先進事例及び育成講義に係る「先進・育成事例集」の作成

# 金融機関の担当者での活用を目的に、省エネの必要性や金融機関と省エネ支援機関の取組事例、補助金や省エネ支援機関の情報を整理した「先進・育成事例集」を作成した

## 「先進・育成事例集」の作成

### 作成に向けた基本的な考え

- 金融機関の担当者での活用を目的に、先進・育成事例集を作成した
- 本事業で活用した資料を基に、①なぜ省エネが必要か、②中小企業の省エネの進め方と連携事例、③補助金一覧、省エネ支援機関連絡先一覧を整理した

項目案	概要	整理方法
①なぜ省エネが必要か	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 中小企業の現状や取組状況、国や自治体の取組状況、省エネによるメリットを記載した</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 各種公開情報を基に整理した</li></ul>
②中小企業の省エネの進め方と連携事例	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 中小企業が省エネの進め方や「金融機関」と「省エネ支援機関」が連携した取組等を中心に事例を20件を記載した</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 全国の金融機関や省エネ支援機関に対してヒアリング等を実施し、事例として整理した</li></ul>
④補助金一覧、省エネ支援機関連絡先一覧	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 補助金一覧と中国地域における省エネ支援機関の連絡先を記載した</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 補助金一覧は、中国経済産業局HP (<a href="https://www.chugoku.meti.go.jp/pamph/syukai.html">https://www.chugoku.meti.go.jp/pamph/syukai.html</a>)、省エネ支援機関連絡先一覧は、資源エネルギー庁のHPにて公開されている内容を整理した (<a href="https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/chiiki_partnership/support.html#pref30">https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/chiiki_partnership/support.html#pref30</a>)</li></ul>

- 上記の内容について、300部を印刷し、希望する金融機関と省エネ支援機関を対象に配布した（残った分は中国経済産業局に送付）
- あわせて、顧客用に持参できるチラシとして概要版（A4・1枚）も作成し、配布した

## ディスクレーム

- 本報告書は、貴課と当法人との間で締結された、令和7年8月6日付け契約書に基づいて実施した、「令和7年度中小企業等の省エネルギー診断拡充事業（サプライチェーン向け省エネ・地域パートナーシップ構築事業）」に関するご報告であり、保証業務として実施したものではありません。内容の採否や使用方法については貴課自らの責任で判断を行うものとします。
- 本報告書に記載されている情報は、業務実施時点のものであり、公開情報を除き、貴課又は関係者から提出を受けた資料、また、その内容についての質問等を基礎としております。これら入手した情報自体の妥当性・正確性については、当法人の責任の範囲ではありません。
- また、本報告書は貴課内部での利用を前提に作成されておりますので、書面による事前の承諾なく全部または一部を第三者に開示されることのないようお願い申し上げます。

デロイト トーマツ グループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッド および デロイト ネットワーク のメンバーであるデロイト トーマツ 合同会社 ならびに そのグループ 法人（有限責任監査法人 トーマツ、デロイト トーマツ リスク アドバイザリー 合同会社、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザリー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人、DT 弁護士 法人 および デロイト トーマツ グループ 合同会社 を含む）の総称です。デロイト トーマツ グループは、日本で最大級の プロフェッショナル グループ のひとつであり、各法人 がそれぞれの 適用法令 に従い プロフェッショナル サービス を提供しています。また、国内 約 30 都市 に 2 万人 超 の 専門家を 擁し、多国籍 企業 や 主要な 日本 企業 をクライアント としています。詳細は デロイト トーマツ グループ Web サイト、[www.deloitte.com/jp](http://www.deloitte.com/jp) をご覧ください。

Deloitte（デロイト）とは、デロイト トウシュート マツ リミテッド（“DTTL”）、その グローバル ネットワーク 組織 を構成する メンバー フォーム および それらの 関係法人（総称して “デロイト ネットワーク”）の ひとつ または 複数 を指します。DTTL（または “Deloitte Global”）ならびに 各 メンバー フォーム および 関係法人 はそれぞれ 法的 に 独立した 別個 の 組織体 であり、第三者 に関して 相互 に 義務 を 課し または 拘束 させる ことは ありません。DTTL および DTTL の 各 メンバー フォーム ならびに 関係法人 は、自らの 作為 および 不作為 についてのみ 責任 を 負い、互いに 他の フォーム または 関係法人 の 作為 および 不作為 について 責任 を 負う もの ではありません。DTTL は クライアント への サービス 提供 を 行いません。詳細は [www.deloitte.com/jp/about](http://www.deloitte.com/jp/about) をご覧ください。

デロイト アジア パシフィック リミテッド は DTTL の メンバー フォーム であり、保証 有限責任 会社 です。デロイト アジア パシフィック リミテッド の メンバー および それらの 関係法人 は、それぞれ 法的 に 独立した 別個 の 組織体 であり、アジア パシフィック における 100 を 超える 都市（オークランド、バンコク、北京、ベンガルール、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、ムンバイ、ニューデリー、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京 を含む）にて サービス を 提供 しています。

Deloitte（デロイト）は、最先端の プロフェッショナル サービス を、Fortune Global 500® の 約 9 割 の 企業 や 多数 の プライベート（非公開）企業 を含む クライアント に 提供 しています。デロイト は、資本市場 に対する 社会的 な 信頼 を 高め、クライアント の 変革 と 繁栄 を 促進 することで、計測 可能 で 継続性 の ある 成果 を もたらす プロフェッショナル の 集団 です。デロイト は、創設 以来 180 年 の 歴史 を 有し、150 を 超える 国・地域 に わたって 活動 を 展開 しています。“Making an impact that matters” を パーパス（存在理由）として 標榜 する デロイト の 約 46 万人 の 人材 の 活動 の 詳細 については、[www.deloitte.com](http://www.deloitte.com) をご覧ください。



IS 669126 / ISO 27001



BCMS 764479 / ISO 22301

IS/BCMS それぞれの 認証 範囲 は こちら を ご覧ください

<http://www.bsigroup.com/clientDirectory>

Member of  
Deloitte Touche Tohmatsu Limited